

清代寧波沿海部における開発と移住

本田 治

一、はじめに

伝統的中国社会は他の歴史世界と比較しても移動性の高い社会であつた。中国史上何度も起こつた大規模な人口移動はよく知られている。四〇五世紀五胡十六国時代に北方民族の中原進出にともなつて起こつた人口の南移、十二世紀金軍の南下による宋朝の南渡、官僚の南遷、流民の江南への流入などよく知られた事例である。どちらの場合も玉突き的移住の連鎖など江南社会に混乱をもたらしたが、やがてそれも終息し、結果として江南の経済開発が進み、中原の文化や先進技術が普及したと評価されている。現在、中国本土以外の世界各地には数千万人以上と推定される華僑、華人と呼ばれる人々の存在、特に唐代以来とされる東南アジア諸地域への移住も国内移住の延長上にあり、彼らにとつて海洋、国境すら移動を阻む決定的障害とならなかつた。^①

近年中国では移住史研究の分野で大部な研究書の刊行があいついだ。大部だけでなく、それまでの研究が往々にして「漢民族発展史」乃至「中華世界拡大」の歴史という枠組みから、考察の中心を戦乱や飢饉を原因とする大規模かつ集団的で移動距離が長い、いわゆる生存型の移住に置いていたのに対し、移住することで経済的にも文化

的にも生活を向上させようとする発展型移住にも問題関心を広げ、古代から近現代まで移住のもつあらゆる側面を網羅的総合的に理解しようとする傾向が看取できる。最近刊行された葛劍雄・吳松弟らの移住史研究は、こうした移住先のプル要因と移住後の地域社会の変化にも強い関心をよせる近年の研究動向を反映した研究成果である。一方わが国においては斯波義信や山田賢らは、香港や台湾における現地調査の成果をふまえ移住と地域社会形成の内の関連に注目し、江南や四川の事例研究において移住によつてもたらされる秩序の再編成の過程を明らかにしてきた^④。本稿はこれまで発表した宋代と明代の寧波についての考察につづいて、清代寧波沿海部という地域における移住の実相の一端を明らかにしようとするものである。すでこの地域における移住問題については斯波義信、上田信の先行研究があり、本稿も基本的枠組みをそこから得ている^⑤。

本稿作成にあたり基本史料として使用した『寧波市地名志(市区部分)』、『鄞県志』、『鎮海県志』^⑥の史料としての制約と効用については、前二稿において述べてきたのでここでは繰り返さない。また表題のいう沿海部という表現は厳密でないが、情報源の上記三書がカバーする地域を指している。『寧波市地名志』の市区とは、現在の寧波市区(海曙区・江北区・江東区)で、うち段塘鎮・西郊郷・福明郷・灣塘郷が旧鄞県城と郊外地区にあたり、慈城鎮(旧慈溪県城)・妙山郷・雲湖郷・洪塘鎮・裘市鎮・莊橋鎮・費市鎮・乍山郷・半浦郷・東郊郷は旧慈溪県領域の一部に相当し、北郊郷は旧鎮海県に属していた。『鄞県志』の範囲は市区を除く旧鄞県、現在の鄞州区全域にあたる。『鎮海県志』は城関鎮(旧鎮海県城)のほか鎮海県全域をカバーしている。

二、移住者の出身地

『寧波市地名志（市区部分）』、『鄞県志』、『鎮海県志』に載る遷住の事例のうち、遷住時期が清代以降で、移住先や出身地の分かるもの四八六例を検討すると、以下のような傾向を指摘することができる。

まず寧波府以外からの遷住事例は八六例で、全体の約一八％にあたる。その内訳は浙江省内から四七例、浙江省以外から三九例となつてゐる。この府外からの移住数は、宋朝南渡という政治的混乱もあり遠距離の移動が激しかった宋代に比べてかなり低く、明代（各地区二〇％）に比べてもさらに低い。浙江省外からの移住者の出身地域でもっとも多いのは福建省二〇、ついで安徽省六、河南省四、山西省三、山東省三、広東省二、四川省二の順である。

寧波府をのぞく浙江省内からの移住例は四七例で、その内訳は紹興府二三、台州一〇、温州二、金華府一となつてゐる。その大部分を占める紹興府は寧波府の西隣りに位置し、その事例の大部分を占める余姚（三一表番号、以下同じ）は紹興府の東端にあたり、寧波府慈溪県と境域を接している。次位の台州（黄巖県五、寧海県二、臨海県一、県不明二）もまた寧波府と隣接している。つまり浙江省内からの移住については、ほぼ隣接する二地域からの移住だけに限られてゐる。浙西諸地域からの遷住数の減少傾向は明代においても認められたが、清代では遷鄞例は全くななくなつてゐる。このことは清代寧波の人口誘引力の及ぶ範囲はほぼ隣接する地域に限定され、明代とくらべても縮小傾向にあつたと考えられる。浙江省外からの遷入事例で圧倒的に多いのは福建である。宋元時代では、三十五例（三三五例中）、明代では二〇例（八一例中）と、福建から北にむかう人の移動は宋代以来継続してきた。このことは、寧波地域のプル要因よりも、福建地域のプッシュ要因、つまり人材輩出の諸事情から説明すべきであらう。次位の安徽省六例（安徽三、歙県績溪県三）の事例は孤立しており、他の江南諸地域からの遷入事例は全くない。

これも新安商人の活躍の足跡とみなすべきであろう。

以上のごとく清代、寧波地域へ他地域からの来住する事例は減少傾向にあつたことは確かである。しかし、寧波地域における移住活動が低調であつたかといえ、そうではない。如上の寧波府以外からの移住事例の約五倍にあたる、府域内移住が存在していたからである。つまり移住元も移住先も寧波府内である事例が三三三例をかぞえ、この府域内移住の事例は全遷住事例四八六の七三%にあたり、移住元が不明な事例を除いた全遷住事例四三九の八〇%に相当する。府外からの遷住が低調であつた分、寧波府内で完結する短距離移住が盛んに行われた。府域内移住三三三事例の内訳は府内他県が一一三、同一県内移住が二二四となっており、県内移住という移動距離が短い事例が全体遷住事例の約半分を占めていた。また内六三例は同じ郷鎮内の移動であり、「隣村自り遷来す」とさらに移動距離の短い例もある(76 4、63 6、83 4、90 2 文末表1より、特に注記のない場合は以下の文中の番号も同様)。

三、移住先

『寧波地名志(市区部分)』と『鄞県志』とが載せる移住先情報を各郷鎮別に配列すると、以下のようである。西郊郷七五(浙江省以外の省5・浙江省内4・寧波府内13・寧波市区&鄞県55・移住元不明2、以下同じ)、半浦郷六二(5・20・11・18・8)、城内四二(7・1・20・9・5)、福明郷四〇(0・2・2・27・9)、東郊郷二九(2・2・4・19・2)、裘市鎮一八(0・2・9・5・2)、北郊郷一八(2・0・2・12・2)、妙山郷一五(0・2・8・4・1)、洪塘鎮二三

(1・1・5・3・3)、莊橋鎮七(0・0・3・4・0)、慈城鎮七(0・2・1・3・0)、費市鎮六(0・0・1・4・1)、乍山鄉六(0・0・4・1・1)、咸祥鎮六(0・1・1・4・0)、段塘鎮五(1・0・0・3・1)、灣頭鄉五(0・0・0・2・3)、姜山鎮五(0・1・0・4・0)、茅山鄉五(0・0・0・3・2)、龍觀鄉四(0・0・1・3・0)、宝幢鄉三(0・0・2・1・0)、東吳鄉三(0・0・0・3・0)、鍾公廟鄉三(0・0・0・2・1)、樅社鄉三(0・0・0・1・2・0)、集仕港鎮三(0・0・1・2・0)、麗水鄉二(0・0・0・2・0)、梅園鄉二(0・0・2・0・0)、寧鋒鄉二(0・0・1・1・0)、雲湖鄉一(0・1・0・0・0)、高錢鎮一(0・0・0・1・0)、韓嶺鄉一(0・0・0・1・0)、大嵩鄉一(0・0・0・0・1)、潘火鄉一(0・0・0・0・1)、朝陽鄉一(0・0・0・1・0)、梅嶺鄉一(0・0・0・0・1)、大皎鄉一(0・0・0・1・0)、雲洲鄉一(0・0・0・1・0)、白岳鄉一(0・0・0・1・0)、洞橋鄉一(0・0・0・1・0)、杖錫鄉一(0・1・0・0・0)、管江鄉一(0・0・0・0・1)、以下省略。

府郭(鄞县城)とその周辺地区(西郊郷・城内・福明郷・東郊郷・北郊郷・莊橋鎮・段塘鎮)への遷住事例数は二二〇例、全体の約五四%にあたる。都市とその郊外地区の誘引力の強さを表している。この傾向は宋代以来変わらないところである。移住先事例の多い郷鎮が集中しているのは、府郭の西部にのびる余姚江北岸地区(半浦郷・裘市鎮・乍山郷・妙山郷・慈城鎮・洪塘鎮・費市鎮)で二二六例を数え、全体の約三二%を占める。なかでも半浦郷六二例は突出している。半浦郷への寧波府外からの遷入は二五例をかぞえ、その約半分にあたる一三例が余姚県出身者となっている。これは西隣の紹興地域から東に向かう人の移動の流れが存在したことを示しており、その流れが余姚江という幹線水路に沿って動いていたことが認められる。また慈城鎮は慈溪県城(一九五五年まで)であつたが、移住者の受け入れ事例数という点では半浦郷の十分の一にも満たず、地方都市としての誘引力も府郭たる鄞県県城とは大きな格差があつた。

次に鎮海地区について見ると、以下のようである。上位から、貴廳鎮一三(4・2・6・1・0)、莊市鎮一三(1・0・9・3・0)、俞范鎮八(3・3・2・0・0)、駱駝鎮八(1・1・3・3・0)、楓林鄉七(2・0・3・2・0)、臨江鄉四(0・0・2・2・0)、郭巨鎮四(0・0・4・0・0)、大碶鎮三(1・0・2・0・0)、柴橋鎮三(1・0・2・0・0)、霞浦鎮三(0・0・3・0・0)、城関鎮二(0・0・1・1・0)、澥浦鎮二(1・0・1・0・0)、新碶鎮二(0・0・2・0・0)、塔峙鄉二(1・0・1・0・0)、白峰鄉二(0・0・2・0・0)、三山鄉二(0・1・1・0・0)、長石鄉一(0・0・0・1・0)、汶溪鄉一(0・0・1・0・0)、高塘鄉一(0・0・1・0・0)、小港鎮一(1・0・0・0・0)、下邵鄉一(0・0・1・0・0)、上陽鄉一(0・0・1・0・0)、峙頭鄉一(0・0・0・1・0)となっている。

鎮海県は寧波の東部海岸地域を構成する。前述の「寧波市区」「鄞県」からなる内陸部ほど事例分布の偏在はみられず、移住事例の分布が比較的平均していることは、宋代以来の特徴である。あえて言えば、宋代では河頭鄉・長石鄉・三山鄉・紫石鄉など内陸部への移住が多かったのに対し、清代では甬江北岸の海岸地区(貴廳鎮・莊市鎮・俞范鎮・駱駝鎮・臨江鄉・城関鎮)への移住例が五〇例にのぼり、鎮海区全体の八五例の五九%を占めていることができる。このことは、康熙二五年に海岸地区を南北に貫く靈緒塘(万弓塘)が建設された後、決壊、補修をくりかえし清末民初まで開発前線が存在していたことと符合する^⑦。

四、移住の動機

清代内陸部、特に西北部や華中では洪水や旱魃を原因とする深刻な飢饉が頻発し、人々の大規模な移動が起こったが、寧波まで影響がおよぶことは少なかったようで、寧波の移住史料には、そうした記述はあまり見られない。

(1) 逃荒、虎害

唯一の事例は、移動時期が明末清初ということで、前稿においても紹介した北郊郷烏隘村の烏氏の事例である。烏氏の先祖は河南潁川の望族で明末清初に兄弟で飢饉を逃れてこの地に來たった。燒窯を生業とし繁栄して村落を形成するにいたったという(51)。

清初にこの地域で虎が生息していたかどうかは不明だが、順治(一六四四―一六六一)のころ鎮海縣四古庄対河元宝漕の陳元茂(字君盛)は虎患を避けて東吳郷生姜漕に移り住み、以後繁栄し子孫は史家灣、羊角田、西郷等處に分居したとある(62, 2)

(2) 戦乱、火災

清末江南を席卷した太平天国の乱を原因とする移住が二例存する。咸豐年間(一八五二―一八六一年)、馮氏は慈溪縣

城から西郊鄉馮家辺村に移り住んで村を建設したとある(72・6)。同じく馮氏が、太平天国の乱時に妙山郷浮上橋村に来住したという。出身地は不明であるが、移動時期からして前述の馮家辺村の馮氏と同系かもしれない(72・8)。西郊鄉朱家漕村の村名の由来となった朱氏は康熙年間(一六六二—一七七二年)に城内藕繯橋から来住して興隆したが、太平天国時に家屋が焚毀し、族を挙げて転出していった(14・1)。戦禍に遭つても家屋が残れば終息後に元にもどることも可能であつただろうが、焼失すると再起できずに外遷を選択することもある。それは戦禍だけでなく単なる火災も同じであつた。

西郊鄉前六畝村の開村は県城南門の楊氏が来住した明嘉靖万曆の間にかかり、明末清初には興隆して新たに隣地の后六畝村を開くにいたるが、乾隆年間に前六畝村の大戸が火災に遭い、楊氏の一部は近くの三眼橋村、藕池頭村に移住したとある(三眼橋村、后六畝村、前六畝村、藕池頭村 73・2・3)。西郊鄉南張家岸村は、康熙年間(一六六二—一七七二年)、福建から来住した張氏の創建にかかり、繁栄して北張家岸を建てるにいたるが、のち北村は祖屋を火事で失い、廢村となつたとある(56・3)。

(3) 商人

商業活動には物と人の移動をともしなう。寧波は宋代以来、杭州の外港として国内外に開かれた交易の中心であつたから、商人がその活動拠点として移り住むのは当然であつただろう。

半浦鄉黑白屋村の草分けである陸氏は、伝によると福建で木材行をいとなみ、移住後この地に黒壁の樓房を建て

て家業を継いだ(63.3)。後に道光年間(一八二一〜五〇年)に外甥の張氏が真つ白の高樓を建てたのに因んで黑白屋村と呼んだという(63.3)。福建からやつてきた莊橋鎮林沐村の沐氏も明代崇禎年間(一六二八〜四四年)に来鄭して木材業で財を成したが、清光緒年間(一八七五〜一九〇八年)には外地へ移住していったという(29.3)。城内大尚書橋下で靛青業を営んだ廖奇白はもとも福建の人で、藍の売買のために寧波に来住した(79)。

新安商人の活躍の跡もうかがうことができる。徽州から商売で来鄭した姚氏は、遂に城内月湖湖畔に定住したのでという(36.3)。城内甘溪に住む洪氏の先祖洪高遂は清初に兄とともに徽州歙県から来鄭している。目的は「承辦鹺務」とあり、塩商人であつた。彼らは唐の進士、諫議大夫洪經綸の子孫を名乗り、以後一族よく繁栄し湖西虹橋南、祝都橋、烏合橋、城西楊家橋に分派し、同治進士礼部主事洪応祥、光緒翰林洪嘉滋が輩出した(39.4)。広東商人も寧波に来住している。広東の客戸の穆氏は、商売で寧波を訪れ城内穆家巷に家を建てて店を構えた。その後子孫は広東に帰り、居宅は劉氏の手に移つたが、巷名は変わらずに穆家巷と呼んだとある(93)。商人の移動性は高かつたようで、宣統のころに洪塘鎮桂巖村に移り住んで商業に携わつていた巖氏は、その後転出して村に嚴姓がいなくなつたという(101.1)。また逆に商売で財をなした後、農村に田畑を購入し地主化することもある。うで、鎮海県大榭郷龍山の虞氏は先代が商売で成功し、咸豐年間に洪塘鎮に農地を購入し家を建て、虞家村を興したとある(76.3)。

(4) 職人、芸人

鄞県邱隘鎮の廟前周家村に兄弟がいた。彼らは代々理髪業を営んでいたが、ある時族長に村を追い出され、二人は裘市鎮の河の西岸にたどりつき、周家橋頭村を興したとある(28.13)。小港(鎮)胡家埕胡氏の遷祖胡子華は清初順治年間に安徽省歙県から鎮海県小港鎮胡家埕に來住し煉瓦製造を業とした(表2 鎮海県 22.1)。寧海県橋頭胡鎮の袁氏三兄弟は、一九〇八年に鄞県雲湖鄉金沙畝の会龍庵の普請に際し大工としてやってきたが、竣工後も同地に残り木工作業所を開いて経営した(53.2)。康熙雍正のころ鄞県姜山鎮の陳氏の木偶戲一座は費市鎮をおとずれ公演を終えたあとも留まり定住し、以後子孫が繁栄し村落を形成した(62.10)。

(5) 漁民

漁師は職業柄船という移動手段をもつゆえに移動性が高いのではないかと想像してしまいが、上陸するぎっかけはその船を失った時が多い。例えば、清初、余姚江で漁師をしていた張氏は船が転覆して身の置き所がなくなり、止む無く裘市鎮大西埕に上陸して小屋をつくり半農半漁で生計を立てているうち発展して村を形成したとある(56.10)。少し下って清代中期、同じ余姚江の漁師の張氏は漂流して支流の沙灘にたどりつき小屋を建てて定居し、その後沙灘は発展して裘市鎮支浦張村となった(56.12)。清初、慈溪県三北鎮の唐氏も余姚江で漁をしている時に船

が沈没してしまう。そこで引き上げた沈船で小屋をつくって定住し、半農半漁を営み、やがて発展して聚落となった(46頁)。以上はどれも事故で船を失ったために止む無く上陸した事例で計画的な移住ではない。

洪塘鎮留車橋村はもとも舟山の漁民が定住してできた聚落であるという。現在の居住者は鄭・翁・趙・鄺・余・邵氏の六姓であるが、六姓の先祖はすべて舟山の漁民で、漁をするためにこの地にやってきたとある(92頁)。前述のような、遭難 ↓ 上陸 ↓ 定住というパターンでなく、舟山漁民の出漁のための基地から定住へと移行していったものと考えられる。

(6) 農業労働者

二十世紀初頭までの寧波地域の地主経営における農業労働が主に短工・長工とよばれる農業労働者によって担われていたことは、松田教授の聞き取り調査^⑧において明らかになったところである。調査によれば、そうした農業労働者は、おおむね当該村落内の最下層の貧農で自らの土地をもたず、農業労働のほか種々の賃労働に就役した。なかでも短工と呼ばれる季節労働者の一部は村落外からも流入し、雇用者の用意した施設に寝起きし食事を与えられ、契約期間が終了すると賃金を受け取って去っていったという。それに対し長工は近郊村落に在住するものが多く地主の信頼を得たものが採用され賃金も高く短工の労働の監督を受け持っていたという。こうした村落外から入った農業労働者の一部はその地に根を下ろすものがあった。寧波東北五、七kmの東郊郷単家村は、明代は趙家村といった。在村の主姓である単・明・紀三姓はもと趙氏の雇農であつたが、趙氏が衰落した後、単氏が興隆し単家村と改称す

るに至つたといひ、単氏は光緒年間に奉化県から趙家村に遷住したといふ(34頁)。「地名志」は寧波北四、六kmの北郊郷高田畝村の村名の由来を説明するにあたり『光緒鎮海県志』を引いて「高田頭と称す。村の四周に田畝あり、時に勢較(や)や高く、故に名づく。村民先世多く黄巖等の地の雇農為りて此に定居す」(二〇四頁、高田頭)とある。ここでは南隣の台州黄巖県から労働者がきていた。寧波西北一九、二kmにある妙山郷汪家村の陳氏は慈溪県龍山鎮金夾畝から農業労働者として来住し長工となつた後に定住し、すでに二〇〇年以上経つてゐるとある(62・26)。

寧波の東七、四kmの福明郷王家園は伝によると宋末に王氏が造営した花園に由来し、今の主姓邵氏は王氏の幫工で三〇〇年前に隣の邵家村からやつてきたとある(31・5)。隣村の王公漕村の村名の由来は水池が王氏の所有にかかるにあり、現在の多姓である邵氏はもと王氏の雇農であつたといふ(31・6)。こうした労働者の既存村落への流入や彼らの繁栄による新村開設は近年まで続いたやうで、寧波西北九、三kmにある裘市鎮蕙日庵はもと裘氏の菩提寺であつたが、一九四九年の革命時に無住となり、一人の長工が住み着き庵内の農地を耕作しはじめ、近年居住者が増加して、現在八戸三四人の聚落を形成するにいたつた、とある(地名志、一七八頁、蕙日庵)。以上のように労働者の出身地は近隣村落ばかりでなく、奉化県・黄巖県・慈谿県などやや遠距離からの出稼ぎ労働の存在も認められる。ここでは農業労働者の移動↓定住の事実が存在したことを指摘しておくにとどめる。

(7) 入贅

『地名志』には入贅した男性が妻の実家に居を移した後、隆盛となり村名の由来となる事例が紹介されている。

半浦郷張陸村はもともと張家村と呼ばれていたが、清初に慈溪県白米灣村の陸氏が張氏に入贅した。その後陸氏の子孫が繁栄したので村名を張陸村に改めたとある(63・5)。鎮海県貴駟鎮蔣王村王氏も清初に慈谿県三北鎮邱王から入贅し、後に隆盛したとある(表2 鎮海県1・3)。

(8) 山紫水明

美しい環境に惹かれたことを移住に動機としてあげた事例は、明代では三例、清代では一例存した。慈溪県城に居住する桂氏は道光・咸豐年間にたまたま東南四、六kmにある姜湖に遊んだ際、その地の鍾靈毓秀、景色優美なるに感じてすぐさま土地を購入して家を建てた。その後一族は発展して村となり村名を桂家村と呼ぶにいたった(50・1)。

(9) 分居

分居は親族の一部が集居している居所から離れて別な場所に移住することで、前提として族員の蕃衍状態があり、一族全員が移住するのではなく本体は残り、一部が移住することという。この種の移住は生存型でなく発展型移住である。寧波東北七、九kmの北郊郷老陳家莊の陳氏は、元代に河南省から鄞県姜山に移り住み、明代にまた鎮海県西管郷陳家莊に遷った。その後子孫が蕃衍し、また村の東辺に析居した。既存の村を老陳家莊とよび、村東の新聚

落を新陳家莊とよぶにいたつたという。『光緒鎮海県志』はただ陳家莊とのみ記しており、この分居は光緒以降と推測できる(62.27)。分居・析居のほか分遷・分支・分派なども同趣旨の語彙である。分居による移住は宗族の拡大過程で行われる移住であり、移住距離が短いことも特徴として指摘できる。全部で八八例のうち、同じ郷鎮内の移住が三七例、同じ県内が三六例、寧波府内が十一例、寧波府外が二例、不明が二例となり、八三%が同じ県内で移住元、移住先が完結している。例えば、邵氏は南宋建炎年間(一一二七―三〇年)に開封から福明郷邵家村(寧波東七、四km、史魏家東北二、六km)に移住したと伝えられ、明代崇禎年間には同郷松下漕村(寧波東六km、史魏家南一、二km)に分居しており、清代になると、活発に拡大運動をはじめ、康熙年間に同郷柳隘村(寧波東南六、七km、史魏家東南一、七km)に分居し(31.1)、光緒年間(一八七五―一九〇八年)にも東隣の梅墟鎮滕園に移り、さらに福明郷田庄村(寧波東七、一km、史魏家東二km)に移住している(31.2)。同じく邵家村からは隣村の福明郷王家園村(寧波東七、四km、史魏家東二、四km)へも、王公漕村(寧波東七、一km、史魏家東二、一km)へも移住している(31.5、31.6)。しかし分遷したあと移住者が新村を開くこともなく、村の主姓となるほど繁栄もしなかった場合は記録にも記憶に留められなかったであろうから、事実としての分居移住の事例数はさらに多かつたものと考えられる。移住理由が記載されていない多くの近距離移住の中には分居型移住をふくんでいるのではないかと推測している。

10) その他

既に前稿で指摘したが、選択された移住先の地名に使われた文字に、その地の環境の特徴を読みとることができ

る。乾隆年間に裘市鎮横山頭陳家の陳氏は西郊郷楊家村（寧波西北四、二km、鄉政府西北二、七km）に移住したが、楊家村は「村三面河に環まれ、地形偏り高きに因り、亦た楊家壩と称」した（62.13）。同じく乾隆のころに裴氏は奉化県江口裴夾畧から西郊郷園壩村（寧波西四、一km、鄉政府西三、二km）に移住した。地名に由来を解説して「壩は水中に伸出するの陸地なり。壩は方言にして則ち洲なり」とある（82.2）。光緒のころ林氏は望春郷下林村から西郊郷園壩陸家村（寧波西北三、九km、西北二、四km）に遷入したが、移住先の園壩陸家村の環境について「村の四周江河に環繞され、円形を呈し、因りて以て名を定む。壩は方言なり。即ち洲なり」とある（29.5）。

もう一つの文字は「墳」である。天命のころ傅氏は五郷磯益新郷傅家墳から西郊郷傅家墳（寧波西四、一km、鄉政府西三、二km）に移住している。この移住元・移住先に共通する文字が墳である。『地名志』は「墳は阜なり。村河に瀕し地勢高隆き処に建つ、故に傅家墳と名づく」と説明している。移住元の地名にも櫟社郷屠家墳（67.1）、西郊郷張家墳（56.6）、鄞西蟹蛟郷前虞墳（76.1）が見える。「墳」は中洲であり、「墳」は自然堤防である。いずれの場合も共通して河道・河床の変動によつて日々生成される特殊地形で、開発が一定水準まで達した地域では、こうした新生の不安定な空間こそ移住者を受け入れる余白となったものと考ええる。

五、むすび

以上述べてきたところをまとめてむすびにかえる。①移住者の出身地では、宋元明代にくらべ省外からの遷入事

例が著しく減少した。少ない事例のうち福建省の二十例は飛びぬけて多く、これは宋代以来継続している傾向である。二番目の安徽省出身者は新安商人の活動を示すものでこれも明代とも共通する。②寧波府を除く省内からの移住例四七の七三%は西隣の紹興府と南隣の台州が占めており、隣接地域からの移住に限られていた。③移住事例の半分以上は、移住元と移住先とが同一県内で完結する移動距離が短い移住であった。④鄞県城とその郊外地区の移住事例の多さは、地方都市のなかでも府郭が移住者誘引力において他の県城にくらべて圧倒的に強いことを示している。⑤鎮海県の事例分布は県城周辺ではなく、甬江北岸の海岸地区に集中しており、清初の新海塘建設につづく沿海部開発の進行と符合している。⑥移住の理由については飢荒・戦乱・火災・遭難など前代とあまり変化はない。移住者の職種も商人・職人・漁民などと大きな変化はない。注目すべきは、宋代には多くの官僚・士人が寧波に移住したが、清代では移住事例が全くなかったことである。寧波地域が彼らをひきつける魅力を失ったためか、時代の変化に由来するのかわからない。代わって新たに登場したのは、村落外から遷入して定住する短工・長工と呼ばれる農業労働者で、このことは二十世紀寧波平野における地主の直接経営の優越という現地調査の調査結果と符合する。⑦既にまとまった開発余地が減少した清代寧波地域では、河川の周辺に日々生じる特殊地形や衰退する宗族の放棄地のような小さな余白を求め、分居という形の短距離の移住が繰り返された。以上限られた情報からではあるが、清代寧波沿海部における移住の状況の素描を試み、若干の知見を得ることができたと思う。ただ最初に述べたように移住史研究の目的は移住それ自体ではなく、移住者の遷入によって地域社会の秩序がどのようにに再編成されたかを解明することにある。その意味では本稿の考察は不十分であり、残された課題を明らかにするには異なる種類の史料を準備しなければならない。今後の課題としたい。

注

- ① 若林敬子『中国 人口超大国のゆくえ』（岩波新書、一九九四）。斯波義信『華僑』（岩波新書、一九九五）。
- ② 葛劍雄主編『中国人口史一〜六』（復旦大学出版社、二〇〇〇〜二〇〇二）。葛劍雄・曹樹基・吳松弟『簡明中国移民簡史』（福建人民出版社、一九九三）。葛劍雄・吳松弟編著『中国移民史 一〜六』（福建人民出版社、一九九七）。吳松弟『北方移民与南宋社会変遷』（文津出版印行、一九九二）。その他にも、手元にあるものだけでも以下の專論が刊行されている。牛建強『明代人口流動与社会変遷』（河南大学出版社、一九九七）。江立華・孫洪濤（古代卷）・池子華（近代卷）・王俊祥・王洪春（現代卷）『中国流民史』（安徽人民出版社、二〇〇二）。李衡眉主編『移民史論集』（齊魯書舎、一九九八）。黃有泉・高勝恩・楚刃『洪洞大槐樹移民』（山西古籍出版社、一九九三）。張青主編『洪洞大槐樹移民志』（山西古籍出版社、二〇〇〇）。
- ③ 斯波義信『移住と流通』（『東洋史研究』五一・一、一九九二）。同『宋代江南經濟史の研究』（汲古書院、一九八八）前編五、「局地的事例」、後編『寧紹地域の經濟状況』。山田賢『移住民の秩序』（名古屋大学出版会、一九九五）。地域史研究における移住の問題については、松本宣郎・山田勝芳編『移動の地域史』（山川出版社、地域の世界史5、一九九八）がある。
- ④ 本田治『宋代明州沿海部における開発と移住』（二〇〇七年五月、第五二回国際東方学者会議、於日本教育会館）。「明代寧波沿海部における開発と移住」（『立命館文学』六〇八号、二〇〇八）。
- ⑤ 前掲斯波『宋代江南經濟史の研究』。上田信『地域の履歷——浙江省奉化県忠義郷』（『社会經濟史学』四九・一二）、「村に作用する磁力について——浙江省鄞県鄞勇郷（鳳溪村）の履歷」上・下（『中国研究月報』四五五、四五六合併号）。
- ⑥ 『寧波市地名志（市区部分）』（寧波市地名委員会編、一九九三）。『鄞県志』（鄞県志編纂委員会編、中華書局、一九九五）。『鎮海県志』（鎮海県志編纂委員会編、中国大百科全書出版社、一九九四）。

⑦ 鎮海県志編纂委員会編『鎮海県志』（中国大百科全書出版社、一九九四）四四三～五三二頁。

⑧ 孟昭華編著『中国災荒史記』（中国社会科学出版社、一九九九）。

⑨ 松田吉郎編『寧波地域の水利開発と環境』（平成一七年度～二二年度 文部科学省研究費補助金（特定領域研究）『東アジアの海域交流と日本文化の形成——寧波を焦点とする学際的創生——』報告書、二〇一〇年三月）「現地調査の記録」（松田吉郎執筆）参照。

⑩ 分居Ⅱ三五（11、14、77、91、92、93、95、10、143、15、2811、2812、2814、2815、2821、311、313、499、4913、5611、571、573、621、622、6215、632、634、664、671、753、821、84、862、981、991）。分遷Ⅱ二（74、221、231、241、289、298、462、483、494、566、576、629、6218、641、702、735、812、926、951、962、993）。分支Ⅱ一六（72、258、2817、462、721、725、78、鎮海8、鎮海122、鎮海13、鎮海221、鎮海24、鎮海268、鎮海35、鎮海40、鎮海501）。分Ⅱ二（81、82、94、256、2819、6217、6228、6230、723、732、733、鎮海31）。分派Ⅱ二（鎮海6、鎮海15）。分徙Ⅱ一（731）。析居Ⅱ一（6227）。

⑪ 『地名志』二六七頁、福明郷松下漕村の項「邵姓于明崇禎年間自鄉村邵家遷入」。

⑫ 注⑥本田論文。黄寬重『宋代的家族与社会』（東大図書公司、二〇〇六）。魏峰『宋代遷徙官僚家族研究』（上海古籍出版社、二〇〇九）参照。

（本学文学部教授）

表1、清代寧波沿海部（市区・鄞県区）における遷住

番号	姓	移住時期	出身地	移住地	始祖	再移住	備考	鄞県志頁	寧波市地名志
1-1	丁氏	清同治年間	本県大費	雲洲鄉毛夾畝	丁通遠	別有分居樟溪丁家者。		276	
1-2	丁氏	清道光咸豐年間	鎮海縣穿山鎮	慈城鎮竹山灣村、西北14.2km、からの距離、以下同じ）、東南1.5km（鄉鎮政府からの距離、以下同じ）	丁姓10多戸、清道光咸豐年間、鎮海穿山遷来。		村在清道観山東南山湾中、湾内竹林茂密故名竹山湾。		134
1-3	丁氏	清初	鄰村	福明鄉戚隘橋村、東5.1km、北1.1km	始居丁趙陸蔡虞五姓、均于清初自鄰村遷来。		村頭有橋、為戚氏所建、村以橋得名。		264
1-4	丁氏	清初	段塘鎮	東鄉鄧下茅塘村、東南約3km、東南0.6km	又有丁姓明時自上虞遷至段塘。清初分居于此。				255
2	刁氏	清末	慈溪北刁家	裘市鎮刁家村、西北10.4km、西南1.5km	清末從慈溪北刁家遷此定居。				177
3	干氏	民国初	上虞興	半浦鄉上新屋村、西北12.8km、南2.3km	又有居戸干姓、民国初自上虞遷此。				230
4	孔氏	清	鄞県韓嶺	韓嶺鄉陳夾畝	孔光昭			280	
5-1	尹氏	清乾隆年間	奉化市大堰鎮后畝田尹家	西郊鄉王家橋村、西南2.6km、南2.7km	尹姓于清乾隆間從后畝田尹家遷入。	后鄭尹等姓、遷在坟庄附近定居、發展成村、村以僑得名。	村西南原有王姓大坟、建有坟庄并建橋一座名王家橋。		98
5-2	尹氏	清乾隆年間	本県后高車	寧波西南2.8km、段塘鎮北1.8km、尹家塘村	清乾隆年間尹姓從后高車遷此塘旁定居、遂名尹家塘。		民国時又有其他姓氏陸續從黃岩、奉化等地遷入。旧有河塘、為寧波南門十八塘之一。		86
5-3	尹氏	清中期	?	段塘鎮尹家村、西南3.8km、北1.8km 半浦鄉楊界村、西北12.4km、東南1.5km	主姓尹、以姓氏得名、尹氏于清中期遷此定居。				86
6-1	方氏	清道光年間	餘姚文亭方家		清道光時又有方姓自餘姚文亭方家遷来。				228
6-2	方氏	清初	慈溪縣	城内花池巷	清初慈溪方氏遷此建宅、内有荷花池、故名。				60
7-1	王氏	清康熙2年	高貢山油車頭	鄞城紫薇街	懷遠將軍王士俊、字偉如、号梅庵。			278	
7-2	王氏	清康熙初	鄉内前王	裘市鎮田洋村、西北10.5km、西1.1km	該村約在清康熙初從前王分支遷来。		因建村在広瀾田畝之中、故名田洋。		176
7-3	王氏	清康熙年間	鄞西壳麴橋前王村	西郊鄉后王村、西3.3km、西2.3km	王姓于清康熙間從鄞西壳麴橋前王村遷此。		鄞県望春鄉樓下陳（壳面橋）陳家遷此。		95
7-4	王氏	清康熙年間	寧波西郊后王	西郊鄉老湾村、西北2.8km、西北1.3km	王氏于清康熙年間從寧波西郊后王分支遷至此。……王姓世居、原有前后兩村、80年代后村庄發展、現已連成一片。		村在河湾西北呈塊状、因村座落在河湾較大彎曲處而得名。		93
7-5	王氏	清乾隆2年	鎮海五里牌	鄞城英烈街	王上尊			279	
7-6	王氏	清乾隆間	洪塘鎮高路頭王家	寧波北6km、庄橋西2.7km、庄橋鎮王家村	世居王姓、故名。清乾隆間其先祖自洪塘鎮高路頭王家遷来。				187
7-7	王氏	清嘉慶年間	定海縣桃花六横	寧波鄞鄉里	王成元	其裔有分居慈溪大隱者。		278	

7-8	王氏	清嘉慶年間	？	寧波東北9km、鄉駐地東5km、北郊鄉撞鼓牆門村	始居王姓、清嘉慶年間來此。		207
7-9	王氏	清道光7年	鄉內錢家	半浦鄉太平橋村、西北15.8km、北2.4km	村民多庄王兩姓…王姓清道光七年自鄉內錢家遷此。		226
7-10	王氏	清道光年間	鄞縣橫街鎮鳳凰	東郊鄉王家堂村、東南3.2km、東南1.4km	主姓王、于清道光時自鄞縣鳳凰遷此…現村已在城市街区之中。		255
7-11	王氏	清初	？	費市鎮王家村、北11.1km、西北1.7km	主姓王、以姓氏命名、村建于清初。		195
7-12	王氏	清初	？	福明鄉傅家村、東5.3km、北1.5km	清初傅姓王姓遷入。		264
7-13	王氏	清	本縣礪社鄉上下王	集仕港鎮鶴嶼王	王勝地		278
7-14	王氏	清	南東新河頭	城內采蓮橋	王承烈、字殿寶、号信三。		278
7-15	王氏	清	鎮北	城內廣濟橋	王順、字昌后。		278
7-16	王氏	清	？	城內王家牆門	民國時改名王家巷、俗呼王家弄、始居王姓、故名、王氏先祖于清時來遷、今尚有其後裔居此。		59
7-17	王氏	清	？	(居)寶幢	王正甫		279
7-18	王氏	清	？	(居)姜山王家	王氏(名失伝)		279
7-19	王氏	清	？	東郊鄉王家車頭村、東2.3km、地北0.6km	村始居王姓、村旁有灌溉農田之水車、故名、王姓建村已6代、今僅剩2戶。		254
7-20	王氏	清？	鎮海柴橋	東郊鄉王隘村、東南2.3km、西南2.2km	始居王姓、建村約300年、王姓有三支、一支來自鎮海柴橋。	現村已在城市街区之中。	257
7-21	王氏	清？	老城区	東郊鄉王隘村、東南2.3km、西南2.2km	始居王姓、建村約300年、王姓有三支、一支…一支來自老城区、已5代。	現村已在城市街区之中。	257
7-22	王氏	清？	奉化	東郊鄉王隘村、東南2.3km、鄉駐地西南2.2km	始居王姓、建村約300年、王姓有三支、一支…一支…一支來自奉化、已7代。	現村已在城市街区之中。	257
7-23	王氏	民國34年	柴橋鎮	半浦鄉黑白屋村、西北15km、西北1.3km	別有居戶王姓、民國34年自柴橋遷此。		226
7-24	王氏	1949年前後	？	福明鄉楊木碇村、東北6.4km、北3.9km	村有楊木碇、以碇得名。村中住戶多羅俞王三姓…王姓于1949年前後遷入。		261
7-25	王氏	1951年	半浦鄉石公亭陳家村	半浦鄉繆家村、西北15km、北1.5km	1951年又有王姓自鄰村石公亭陳家遷入。	以始居繆姓得名、据伝繆姓于清乾隆間自餘姚三七市移居來此。	226
7-26	王氏	1959年	安徽	半浦鄉塘路下村、西北14.5km、西南2.3km	1959年又有王姓自安徽來此定居。		228
8-1	包氏	清順治間	鄞縣西郊鄉后包	西郊鄉中包村、西5.5km、西4.3km	包姓于清順治間從后包分此。	村建于前包后包之中、故名。	92
8-2	包氏	清順治間	鄞縣西郊鄉后包	西郊鄉前包村、西5.6km、西4.4km	包姓于清順治間從后包分此。	村建于中包后包之南、故名。	92
8-3	包氏	清道光年間	本市江東包家	福明鄉下張村、東北5.3km、北3.4km	清道光間、又有包氏自本市江東包家遷來。		260

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

9-1	史氏	清康熙間	鄞縣下水	東郊鄉賢良巷史家、東南1.8km、東南0.2km	史姓于清康熙年間從鄞縣下水遷至江東賢良巷史家、后分居于此。	原為史家魏家兩村、均以姓氏得名。現兩村已連成一片。1992年經区政府批准命名為史魏家。	260
9-2	史氏	清康熙間	東郊鄉賢良港史家	福明鄉后史家村、東北3.5km、西北3.2km	世居史姓而得名…史姓先祖于南宋末年從河南洛陽遷至鄞縣以后又移居至寧波江東賢良巷史家、清康熙間分居于此。		262
9-3	史氏	清康熙間	東郊鄉賢良港史家	福明鄉前史家村、東北3.6km、西北3.1km	世居史姓而得名…史姓先祖于南宋末年從河南洛陽遷至鄞縣下水、后移居寧波市江東賢良巷史家、清康熙間分居于此。		262
9-4	史氏	清	東郊鄉賢良港史家	東郊鄉驚駕橋村、東2.2km、北0.8km	史姓自賢良港史家分此、亦7代。	明清時稱金家橋、以始居金姓得名。后徐史傳陳諸姓聚居…。	254
9-5	史氏	清?	東郊鄉賢良巷史家	福明鄉史魏家村、東5.1km	史姓于清康熙年間從鄞縣下水遷至江東賢良巷史家、后分居于此。		260
10	平氏	清	奉化縣平夾畝	鄞縣社鄉平村	平金	其裔有分居鄞江橋·大夫橋及福建廈門者。	280
11-1	邊氏	清	慈溪	梅園鄉沿山邊家	邊士顯		281
11-2	邊氏	清	姜山	姜山区下塘	邊太禎	其始祖自慈溪遷入姜山、遷入時代無考。	281
12	任氏	清末民初	?	洪塘鎮双夾畝李家村、北偏西12.3km、洪北2.8km	始居李姓、村处于兩山畝間、故名。任姓于清末民初時遷入。		160
13	江氏	清康熙20年	鎮海	城內和義門內	江熹	秀水橋江氏亦屬此派。其先江少虞、徽州人、宋宣和五年由京職宣教郎出任定令、遂家于此、清光緒進士刑部主事知江西永新縣江仁征為其后。	282
14-1	朱氏	清康熙間	鄞縣藕纓橋	西郊鄉朱家漕、西3km、西南2.2km	朱姓于清康熙間從鄞縣藕纓橋遷此、村前有一河漕、故名。	朱姓遷此后興旺、建有馬房及馬河埠頭、太平天國時焚毀。后朱姓外遷。	96
14-2	朱氏	清乾隆間	鄞縣布政鄉泥橋頭朱家	西郊鄉仲家橋村、西南3.7km、西南3.2km	朱姓于乾隆間從鄞縣布政鄉泥橋頭朱家遷入。		98
14-3	朱氏	清末	裘市鎮朱界	裘市鎮后朱界村、西北8.7km、南1.4km	清末從朱界分居至此、發展成村、因建村后于朱界、故名后朱界。		178
14-4	朱氏	1949年	福明鄉前陳村	福明鄉汪家村、東5.2km、北1.8km	因始居汪姓而得名…陳朱兩姓于1949年自鄰村前陳·朱家遷此。		264

14-5	朱氏	1950年	鄧東吳鄉大涵山	福明鄉上江村、東6.9km、東北2.6km	朱姓于1950年自鄧東大涵山遷入。			263
15	成氏	清末	庄橋鎮成家	費市鎮成家村、北7.8km、費市南2km	清末、由庄橋成家分居于此、村以姓氏得名。		1981年地名普查時、誤為盛家。	198
16-1	何氏	清	福建	北大路西巷何家弄	何德	其裔今散居城內。		287
16-2	何氏	清?	鄧興樓社鄉車何村	東郊鄉白鶴橋村、東南2.7km、西南1.6km	主住郎何兩姓、何姓自鄧興車何遷來、已7代。		現村已在城市街區之中。	257
17	余氏	清乾隆間	福建莆田縣鎮江州	城內天一街衙漕	余又顯			287
18-1	勵氏	清	福建→鄧興樓社鄉	東郊鄉勵家村、東北2.9km、北1.4km	因勵姓聚居得名、勵氏先祖自福建遷鄧興樓社鄉、後遷此定居、至今已6代。			254
18-2	勵氏	清	?	居城內鑑橋頭	勵君平		勵本為厲氏、清初改厲為勵。	286
19-1	吳氏	清康熙間	梅嶺鄉吳家山	麗水鄉橫山后。	吳貞案			286
19-2	吳氏	清康熙以後	?	福明鄉河園村、東北6.2km、北3.3km	村四面環河、故名。住戶以郁夏吳三姓居多。郁姓自康熙間從鄧興姜山郁家遷來。隨後夏吳二姓亦接踵遷此定居。			261
19-3	吳氏	清乾隆間	古林鎮吳興戴家村	西郊鄉吳家塘村、西1.7km、鄉南1.7km	吳姓世居、于清乾隆年間自鄧興黃古林吳興戴家村遷此。		建有祖堂、因村中有水塘而得名。	96
19-4	吳氏	清乾隆間	段塘鎮	西郊鄉仲家橋村、西南3.7km、西南3.5km	吳姓系清乾隆間從段塘遷入。			98
19-5	吳氏	清嘉慶間	黃巖山下梁	西郊鄉錢家邊村、西北2.3km、西北0.8km	原系錢姓世居、錢姓明末清初、從江東潛龍清遷此。今只一戶、而吳姓為主、吳姓于清嘉慶間、從黃巖山下梁遷入。		鄧興通志與地志、今只一戶、而吳姓為主、吳姓于清嘉慶間、從黃巖山下梁遷入。	94
20-1	宋氏	清嘉慶間	鎮海汶溪鄉宋家	洪塘鎮前潘村、西北7.7km、南2.9km	今有村民以潘宋兩姓為主。宋姓于清嘉慶間自鎮海汶溪鄉宋家遷來。			168
20-2	宋氏	清光緒以前	餘姚陸埠	半浦鄉宋家灣村、西北14.4km、西南1.7km	村始居宋姓...宋氏先世自餘姚陸埠遷來。		光緒慈溪縣志稱宋家灣。	227
20-3	宋氏	清光緒年間	?	半浦鄉塘路下村、西北14.5km、西南2.3km	居戶有宋趙等姓。宋氏先世于清光緒間遷此。			228
21	岑氏	清嘉慶年間	慈北	乍浦鄉岑家村、西北16.8km、東1.2km	以主姓命名、岑氏約于清乾隆年間從慈北遷此。			218
22-1	應氏	清嘉慶19年	餘姚(現慈溪)縣嶺山鎮應家	半浦鄉乍山鄉應家村、西北13.9km、東0.4km	據云、應姓先世于清嘉慶十九年自嶺山應家遷來。	清光緒間、又分遷慈城山西應家。		255
22-2	應氏	清嘉慶年間	鄧興下應鎮	姜山鎮定橋后橫	應会仁·会勇兄弟			288
22-3	應氏	清嘉慶中	樟水鎮蜜岩	大蛟鄉細嶺	應時孝			288
22-4	應氏	清	鄧興下應鎮	茅山鄉斗山橋東	應氏(名字失伝)			288
23-1	李氏	清嘉慶年間	鎮海小港鎮李家分遷到南門尹江橋。	西郊鄉小竺家塘村、西3.2km、西南2.8km	清嘉慶間遷此。			97

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

23-2	李氏	清道光年間	西門外	咸祥鎮	李榮東			285	
23-3	李氏	清道光年間	?	洪塘鎮于家村、西北8.8km、南1.1km	村民主姓于李潘、以始居于姓得名、于姓來歷無考、李潘兩姓于清道光間卜宅于此。		与宅前張樓下李李姓同宗。		158
23-4	李氏	清光緒7年	舟山金塘島	妙山鄉李家村、西北21km、北3.1km	原称上袁家、光緒七年金塘李姓來此入贅、后袁姓絕嗣、以李姓名村。				148
23-5	李氏	清初	浙江永康県	杖錫鄉李家坑	李龔存			285	
23-6	李氏	清初	?	茅山鄉東山頭	李國隆	其五世裔遷慈溪。	据其族人伝説、此族与茅山廟前李氏同宗。	285	
23-7	李氏	清	県西仲夏?	鄞城殿堂街	李成祿、字兼才。			285	
23-8	李氏	清	本県陳婆渡鄉銅盆浦	段塘鎮	李文玉			285	
23-9	李氏	清?	?	福明鄉李家村、北6.1km、北3.6km	村始居李姓、因名。至今已有12代。				261
23-10	李氏	民国15年	黄巖県	半浦鄉店家村、西北13.9km、東0.4km	据伝、店姓先世于清嘉慶十九年自嶺山店家遷來、別有居戸李姓、民国15年自黄巖遷此。				255
23-11	李氏	1949年	黄巖県?	福明鄉后陳村、東5.2km、北0.8km	1949年後、又有王楊李三姓從黄巖等地遷入。				264
23-12	李氏	1949年前后	?	福明鄉明樓村、東北3.8km、西北2.4km	李謝于1949年前后遷入。				262
24-1	汪氏	清初	?	大嵩鄉	汪壽鑫	有分遷安徽歙縣者。	為唐越國公之后。	288	
24-2	汪氏	清?	台州臨海県	福明鄉汪家村、東5.2km、北1.8km	因始居汪姓而得名、汪姓自臨海遷此、至今已10代。				264
25-1	沈氏	清道光年間	慈溪沈師橋	乍浦鄉乍山鄉東沈家村、西北16.9km、東1.1km	沈氏約在清道光年間自慈溪沈師橋遷居于此。		以主姓命名、為与位于鄉南的沈家同名、1981年更名為東沈家。		218
25-2	沈氏	清道光年間	慈溪沈師橋	乍浦鄉乍山鄉南沈家村、西北16.5km、楊家橋東1.9km	沈氏祖上約于清道光年間自慈溪沈師橋遷此。		以主姓命名、為与位于鄉東之沈家同名、1981年更名為南沈家。		222
25-3	沈氏	清咸豐8年	三北沈師橋	半浦鄉后孫村、西北13.4km、東北0.9km	清咸豐八年又有沈姓自三北沈師橋遷來。				225
25-4	沈氏	清咸豐年間	三北沈師橋	半浦鄉孫家漕村、西北13.2km、東北0.9km	村民主姓孫...別有村民沈姓、清咸豐間自三北沈師橋遷此。				225
25-5	沈氏	清初	三北沈家、三北指餘姚北・慈溪北・鎮海北。	裘市鎮山下沈村、西北11.9km、北偏西2.3km	清初三北沈家沈氏來此落戸、發展成村、村在盧家山下。				175
25-6	沈氏	清	妙山鄉坊沿沈姓	妙山鄉智三房村、西北18.1km、西1.2km	住戸沈姓、約150年前由坊沿沈姓分此、以房名作村名。				147
25-7	沈氏	?	妙山鄉坊沿沈姓、西北18.8km、妙山橋北1.5km	妙山鄉北山下村、西北19.1km、東北2.5km	沈姓主居、由坊沿遷來。				149

25-8	沈氏	清?	妙山鄉坊沿沈家	妙山鄉上宅村、西北18.5km、東北1km	始祖在坊沿沈家、已十七代。	其中一箇分支在五湖村委會北山下村		151
25-9	沈氏	1935年	奉化山区	妙山鄉西謝家、西北20.2km、西2.3km	現住沈姓、1935年由奉化山区。			150
25-10	沈氏	1949年	福明鄉沈家村	福明鄉薛家橋村、東北3.6km、西北2.4km	沈氏于1949年從本鄉沈家遷入。			262
26	貝氏	清嘉慶年間	鎮海穿山	鄭咸祥鎮	貝禹年			279
27-1	竺氏	清道光19年	奉化董村	鄞城白衣寺跟	解元、歷署貴州甕安華節知縣竺陳簡。		竺陳簡、為董村始祖竺鉞之後、光緒進士翰林院檢討竺麟祥為其後。	296
27-2	竺氏	清	奉化	城內海曙區靈橋君子宮	竺恒輝		有嘉慶會魁金華教授竺之侃、道光進士分發福建知縣竺鑑為其後。	296
28-1	周氏	清康熙間	餘姚(現慈溪)澣山鎮	西郊鄉后王橋村、西北4.2km、北2.7km	周姓世居、清康熙間從慈溪澣山遷此。			90
28-2	周氏	清康熙間	慈溪周家	西郊鄉周家邊村、西北2.4km、西1km	世居周姓、故名、周姓于清康熙間從慈溪周家。			93
28-3	周氏	清康熙間	?	半浦鄉周家漕村、西北15.7km、西北1.9km	始居周姓、東有河漕、故名。據傳周姓于清康熙間遷此。			226
28-4	周氏	清乾隆3年	慈城	半浦鄉周家村、西北13km、西南2.1km	世居周姓、故名、周氏先世于清乾隆三年(1738)自慈城遷來。			229
28-5	周氏	清乾隆年間	鄞縣布政鄉新莊周家	西郊鄉邁永橋村、西南2.9km、西南2.7km	周朱二姓世居、周姓于清乾隆年間從鄞縣布政鄉新莊周家遷此。			97
28-6	周氏	嘉慶年間	?	石碇鎮雅渡村	周際文			296
28-7	周氏	清光緒間	餘姚三七市	半浦鄉渡頭街村、西北12.9km、南2.9km	村民主姓鄭周、周姓于清光緒間自餘姚三七市遷來。			230
28-8	周氏	清初	慈溪	月湖月島	周升、字上進。		此派奉宋天聖二年(1024)進士累官至太常博士通判饒州周爽、字子餘、号堯卿為始祖。	296
28-9	周氏	清初	慈城	裘市鎮廟前周家村、西北9.5km、西南1.3km	清初周姓從慈城分遷來此、因村后有座前黃都廟、故名廟前周家。		前黃都廟方曆三十三年重修(光緒慈溪縣志)。	177
28-10	周氏	清初	慈溪	妙山鄉樟樹下村、西北16.8km、東南1.4km	村民以周姓為主、清初從慈城遷來。			153
28-11	周氏	清初	台州	東郊鄉周家村、東南3.9km、南2.2km	周姓集居、故名。據民國鄞縣通志載、劉氏五代時避郭威之難更姓周、清初其祖因尋父自台州來。	有分居大堰頭双橋者、建村300余年。		258
28-12	周氏	清初	鄞縣潘火鄉鳳橋	福明鄉周泗漕村、東5km、史魏家北1.3km	周姓于清初自鄞縣潘火鳳橋分居于此。至今已12代。		村西南有漕、旧為周姓所有、漕之利用整治一應事務、悉由周姓掌管、故周司漕、演化為周泗漕。	264
28-13	周氏	清末	裘市鎮廟前周家	裘市鎮周家橋頭村、西北9.9km、西南1.4km	清末廟前周家有两兄弟、因上代以理髮為業、被族長趕出村、兄弟倆離村后在河西岸造了一座周家橋、故亦名周家橋頭。			177

清代寧波沿海部における開發と移住 本田治

28-14	周氏	清	茅山鄉虎嘯周	鍾公廟鄉施家塘	周時明、又名三元、字文華、	其裔係分居象山雅林溪、延壽縣及本縣樂斜(マ)、樟村。		296	
28-15	周氏	清	安徽歙縣	海曙鎮府前	周邦相、邦輔兄弟、自安徽歙縣來、居海曙鎮府前。	其裔分居城內門、西門外、壺橋門、江東等處。		296	
28-16	周氏	清	莊橋鎮	北郊鄉周家村、東北6.5km、東北2km	以有周姓世居得名、又稱竹芭塘周家、周氏先世清時自庄橋遷此。				204
28-17	周氏	清	洪塘鎮老屋周家	洪塘鎮新屋周家村、西北10.5km、北偏西1km	居戶周姓、系老屋周家之分支、清時遷此、故稱新屋周家。		拋伝清時有分支遷至慈江茅洲開西建村、稱新屋周家。		162
28-18	周氏	清	慈城周家	半浦鄉周家庄村、西北14.6km、西0.4km	村世居周姓、以姓氏得名、周氏先世清時自慈城周家分此。				227
28-19	周氏	清?	江東區東郊鄉滄龍漕	東郊鄉后章家橋村、東南3.2km、東南1.2km	居董周王三姓、周姓自江東滄龍漕遷此、已5代。				256
28-20	周氏	清?	慈城鎮大周家	慈城鎮小周家村、西北13km、南2.9km	系大周家分居來此、繁衍成村、稱小周家。		1864年毀于兵火后重建。		136
29-1	林氏	清康熙間	福建	西郊鄉后馬(位于新芝路與新高路交叉之西、系自然村、高塘墩建住宅小区)	林姓世居為主、于清康熙間自福建遷入。				99
29-2	林氏	清乾隆間	福建	西郊鄉林家辺村	西2.5km、西1.2km	林姓于清乾隆間從福建遷此。	処新河塘辺、林姓世居故得名、西面緊靠鐵路、現已和城区相連。		94
29-3	林氏	清乾隆年間	洪塘鎮	庄橋鎮林沐村北6.5km、庄橋西2.6km	始居林沐阿姓、故名。拋伝、明崇禎間來寧波經營木材致富、乃捐官建造太夫第于此。林姓于清乾隆間自洪塘遷此。	后沐姓外遷。林姓子孫繁衍、乃以林沐兩姓名村。	光緒慈溪縣志称林沐。		186
29-4	林氏	清同治間	?	半浦鄉界址橋村、西北14km、西南1.7km	村民主姓林、清同治間移居于此。				227
29-5	林氏	清光緒年間	鄞縣望春鄉下林	西郊鄉園境陸家村、西北3.9km、西北2.4km	現居林姓、于清光緒間從鄞縣望春鄉下林遷此。		陸姓世居、村四周環繞江河、呈円形、因以定名、境、方言即洲也。		91
29-6	林氏	清末	鄞縣望春鄉下林	西郊鄉后孫村、西北4.3km、西北3.9km	林姓于清末從鄞西望春鄉下林遷入。				91
29-7	林氏	清末民初	寧波冷靜街	寧波西4.1km、西3km、西郊鄉橋弄村	林姓于清末民初自寧波冷靜街遷入。	后全部外遷、現為雜姓集居。			92
29-8	林氏	清	福建→江東區東郊鄉周宿渡	東郊鄉冰廠跟林家村、東北2.5km、北1.5km	始居林姓得名、原名林家…林姓自福建遷周宿渡、后又分遷至此、已8代。		以始居林姓得名、林姓宋時自福建遷此、周宿渡宋称周蘇渡、后諧音改舟宿渡周宿渡。(257頁)		254
30	邱氏	清?	鄞縣邱隘鎮	東郊鄉邱家橋頭村、東南2km、西南1.6km	居戶邱姓、鄞縣邱隘鎮遷來、已7代。		現村已在城市街区之中。		257
31-1	邵氏	清康熙年間	福明鄉邵家村、東7.4km、東北2.6km	福明鄉柳陰村、東南6.7km、東南1.7km	邵姓于清康熙間自鄰村邵家分居于此。				267

31-2	邵氏	清光緒間	福明鄉邵家村、東7.4km、東北2.6km→梅墟鎮藤園	福明鄉田庄村、東7.1km、東2km	邵姓于清光緒間自鄉內邵家遷至梅墟鎮藤園后又遷居該村、已6代。			266
31-3	邵氏	清宣統年間	福明鄉松下漕村、東6km、史魏家南1km	福明鄉烏江漕村、東南5.8km、南0.9km	村中以王邵魏三姓居多、清宣統年間先后從松下漕分居于此。		村有漕、漕頭柳樹成蔭、水面亦因之陰黑、旧為烏蓬船停泊避風之地、故名烏江漕。	267
31-4	邵氏	清初	鄞縣邱隘鎮	段塘鎮墩頭村、西南4.1km、東北0.5km	今居邵姓、清初自鄞縣邱隘遷此。			86
31-5	邵氏	清?	隣村	福明鄉王家園、東7.4km、東2.4km	挺伝宋末后裔在此建造一花園、稱王家園、村以園名。		今村民主姓邵、旧系王姓帮工、300年前從鄰村邵家遷此。	265
31-6	邵氏	清?	隣村	福明鄉王公漕、東7.1km、東2.1km	村內有漕、旧婦王氏所有、故名。		今村中多邵姓、旧系王氏履農。建村已有450年。	265
32	金氏	清乾隆間	鄞縣嶺市(鄉)	咸祥鎮	金廷慶、析韓嶺白雲派、遷居...			294
33-1	俞氏	清康熙間	大漕俞家(梅墟鎮)	福明鄉楊木碇村、東北6.4km、北3.9km	村有楊木碇、以碇得名。村中住戶多羅俞王三姓、俞姓于清康熙間自大漕俞遷來。			261
33-2	俞氏	清康熙間	鄞縣塩場俞家	福明鄉老廟村、寧波北6km、北3.2km	村集居俞姓、俞氏于清康熙間自鄞縣新塩場俞家遷此。			261
33-3	俞氏	清乾隆間	鄞縣塩場俞家	福明鄉清水漕村、東北5.8km、北2.6km	村民多俞單兩姓、俞姓于清乾隆間自鄞縣塩場俞家遷來。			261
33-4	俞氏	清初	大嵩	東吳小白	俞維嶽			298
33-5	俞氏	清前期	福建	段塘鎮俞家村、西南4.5km、西北0.5km	俞氏于清前期自福建來此。		世居俞姓得名	86
33-6	俞氏	民国16年	慈城北門俞家	半浦鄉祝家村、西北13.8km、慈城南3.6km	村始居祝姓、故名。据伝、清乾隆十八年祝姓先世自山西太原遷此。民国16年又有俞姓自慈城北門俞家遷來。			225
34-1	單氏	清光緒間	奉化	福明鄉單家村、東北5.7km、北2.9km	明時居趙姓稱趙家。單明紀三姓為趙姓雇農、后趙姓衰落、單姓興旺、改名單家、單姓于清光緒間自奉化遷來。			261
34-2	單氏	清光緒間	福明鄉單家村	福明鄉清水漕村、東北5.8km、北2.6km	村民多俞單兩姓、俞姓...單姓自鄰村單家遷來。			261
35	姜氏	清康熙間	?	(居)鄞東姜家水漕。	姜尚儀		其衡有遷居江東鑄坊巷及南門外半街。	299
36-1	姚氏	清	雲龍鄉姚家漕	姜山鎮后百丈堰	姚嘉言同弟嘉瑞		其子姓有遷麗水鄉柯何董者。	299
36-2	姚氏	清	雲龍鄉姚家漕	麗水鄉橫山后	姚德尊			299

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

36-3	姚氏	清	徽州	城內月湖橋畔	姚毅、号自虞、自徽州販賣來鄞、遂家于城內…。	為唐梁國公崇之後	299		
37-1	施氏	清康熙間	鄞西	城內和義門內	耆儒族例贈修職佐郎施光顯、字輝章。	清景寧學教諭施英椿、知廣東河源縣施念祖皆其後。	298		
37-2	施氏	清康熙間	下庄施家	西郊鄉后施家村、西3.2km、西南2.3km	清康熙間施姓徙下庄施家遷來。	該村与李家墳施姓同宗、建村在後、遂名后施家。		95	
37-3	施氏	清康熙間	下庄施家	西郊鄉李家墳村、西3.3km、西南2.5km	清乾隆初李姓外遷、現居施姓、清乾隆年間徙下庄施家遷入。			96	
38	柯氏	清道光年間	奉化縣	西郊鄉薛家塘村、西2.1km、南2.1km	薛姓世居…本世紀60年代先後外遷、現居柯姓系道光年間從奉化遷入。			97	
39-1	洪氏	清康熙間	洪塘(慈溪?)洪家道頭	西郊鄉廟洪家村、西6.1km、西5km	洪姓于清康熙間從洪塘洪家道頭遷此。	洪姓建村于白龍王廟旁而得名。		92	
39-2	洪氏	清乾隆間	?	乍浦鄉鄉洪陳村、西北16.3km、2.1km	据考洪陳兩姓祖上于清乾隆年間遷此定居。			221	
39-3	洪氏	清宣統2年	?	半浦鄉東江沿村、西北13.5km、東北1.3km	村民主姓馮洪、洪姓于清宣統二年遷來。			225	
39-4	洪氏	清初	安徽歙縣	城內甘溪	洪高遂、字彥成、因承辦縫務與其兄洪亮達自安徽歙縣來。	湖西虹橋南、祝都橋、烏舍橋、城西楊家橋、均屬此派。	洪氏兄弟為唐進士陳鑑大夫洪經綸、字汝仁之後。清同治進士孔部主事洪應祥、光緒翰林洪嘉滋為其後。	298	
39-5	洪氏	清初	?	裘市鎮洪家大典村、寧波西北9.9km、西南1km	清初、洪某在此安家建村、村名洪家。后因洪家興旺發達。			177	
39-6	洪氏	清末	洪塘鎮	裘市鎮洪界村、寧波西北8.7km、南1.6km	清末洪姓從洪塘鎮遷來、因名洪界。			178	
40	祝氏	清乾隆18年	山西太原	半浦鄉祝家村、西北13.8km、慈城南3.6km	村始居祝姓、故名。据伝、清乾隆十八年祝姓先世自山西太原遷此。	民國16年(1927)又有俞姓自慈城北門俞家遷來。		225	
40-1	胡氏	清康熙間	慈溪縣	費市鎮胡家村、寧波北10.6km、西北1.2km	住戶以胡姓為主。又据胡氏宗祠碑記「吾慈東水畝胡氏…康熙年間有說甬甫者始遷于茲地」。	別名水渠畝胡家、古名水磯畝。据光緒慈溪縣志載、「德門鄉茂溪里、上四園東南、距城二十里、水磯畝」。又据胡氏宗祠碑記「吾慈東水畝胡氏、相伝系出自宋大儒安定先生(胡瑗)」。		195	
40-2	胡氏	清乾隆間	寧波市白衣寺旁	西郊鄉三層樓下村、西南2.4km、南2.8km	乾隆年間再遷來此。			98	
40-3	胡氏	民國23年	餘姚	半浦鄉廟后陳村、西北13.2km、東南0.6km	村民主姓陳、清康熙十八年遷此。又有胡姓、民國23年自餘姚遷來。			228	
41	茅氏	清咸豐間	鄞縣茅山鎮	慈城鎮山前村、西北13.9km、東2km	始居茅姓、清咸豐間從鄞縣茅山遷來。	村在并碧山前(南山脚)故名山前村。		134	

42	莊(庄)氏	清道光14年	鎮海縣庄市	半浦鄉太平橋村、西北15.8km、北2.4km	村民多庄王兩姓、庄姓清道光十四年從鎮海庄市遷此。				226
43	郁氏	清康熙間	鄞縣姜山郁家	福明鄉河園村、東北6.2km、北3.3km	村四面環河、故名。住戶以郁夏吳三姓居多。郁姓自康熙間從鄞縣姜山郁家遷來。				261
44	郎氏	清	江北區庄橋	東郊鄉白鵲橋村、東南2.7km、西南1.6km	主住郎何兩姓、郎姓自江北庄橋遷此、已6代。		現村已在城市街區之中。		257
45	倪氏	清康熙間	?	西郊鄉進士壩門村、西北4.8km、西北3.4km	倪姓于清康熙間遷此。		建有進士第、故名、今倪姓外遷、只剩一戶。		92
46-1	唐氏	清初	慈溪縣三北鎮	裘市鎮唐家村、西北8.9km、南2.1km	清初、有一唐姓三北漁民、在江上捕魚時翻船破產、為打撈沉船就搭建草房在此落腳。	以后辺種田、辺捕魚、發展成村、村以姓名。			178
46-2	唐氏	清	北郊鄉販里塘村	北郊鄉東漕村、東北7.3km、北3.1km	曹姓于清時自西管鄉外曹分遷來此。又有居戶唐姓、為販里塘村唐氏之分支。				203
47-1	夏氏	清康熙以後	?	福明鄉河園村、寧波東北6.2km、北3.3km	村四面環河、故名。住戶以郁夏吳三姓居多。郁姓自康熙間從鄞縣姜山郁家遷來。隨後夏吳二姓亦接踵遷此定居。				261
47-2	夏氏	清咸豐間	福建	寧波東北7.3km、駐地東北2.9km、北郊鄉夏家村、寧波西南2.4km、南2.3km、西郊鄉三層樓下村	村有夏姓世居、故名。夏姓于清咸豐間自福建遷此。				203
48-1	孫氏	清康熙間	慈溪孫家		孫姓于清康熙年間自慈溪孫家遷來。		孫胡二姓世居。		98
48-2	孫氏	清乾隆54年	?	寧波西北13.4km、祝家東北0.9km、半浦鄉后孫村	始居孫姓、位于孫家漕之北、故名。據云孫氏先世于清乾隆五十四年遷此定居。				255
48-3	孫氏	清乾隆年間	鄞縣西郊鄉后孫村	西郊鄉前孫村、西北4.3km、西2.8km	從后孫分遷至此。	并建有三進祖堂。	孫姓世居、以姓氏得名、孫姓于明成化年間鄞縣北渡遷此、子孫繁衍、往南分建同村為前孫·中孫、此孫為后孫。中孫在清光緒間焚毀。		91
48-4	孫氏	清嘉慶間	鎮海縣	鄞大沙泥街擂鼓巷	海壇總兵孫大剛		孫大剛為鎮海始祖孫宏汝三世孫。	283	
48-5	孫氏	清道光年間	鄞縣西郊鄉中孫村	西郊鄉上油車村、西北4.3km、西3km	現居孫姓、道光間從中孫遷入。		原為荒地、因早年開過榨油坊、遂名上油車。		92
48-6	孫氏	清	慈溪縣	鄞梅園鄉沿山辺家	孫復祖			283	
49-1	徐氏	清康熙18年	?	半浦鄉塔江橋村、西北16km、西北2.3km	今村民主姓徐葵、徐姓于清康熙十八年遷來。				226
49-2	徐氏	清康熙間	餘姚	鄞縣咸祥鎮	徐尚賢			301	
49-3	徐氏	清康熙至雍正間	鄞縣天童鄉	西郊鄉園境村、西2.2km、西南2.1km	南首稱前園境、徐姓居住清康熙至雍正間鄞縣天童來此。		境伸出水中之陸地。境者、方言則洲也。		96

清代寧波沿海部における開發と移住 本田治

49-4	徐氏	清雍正間	鄞東鄉大墩徐家	西郊鄉張徐王村、西2.9km、西南2.1km	徐姓祖先在鄞東鄉觀音庄、后分遷至鄞東鄉大墩徐家、清雍正間再遷來此。	因土地貧瘠、名僵田王、后徐姓來此建村、諱僵改姜、并嵌入徐姓稱姜徐王、当地姜張同音、土(地)改(革)時寫別為張徐王、沿用至今。	96
49-5	徐氏	清乾隆末	鄞東大墩徐家	西郊鄉管江岸村、西2.4km、西南1.5km	徐姓于清乾隆末鄞大墩徐家遷來。	村南首有省級重點文物保護單位白雲庄(甬上証人書院)為明末清初浙東學派代表人物黃宗義講學處。	95
49-6	徐氏	清乾隆間	慈溪縣三北	西郊鄉華家道地村、寧波西4km、西南3.5km	徐姓于清乾隆間從慈溪三北遷入。	華徐二姓世居、徐姓建有一較大道地(晒場)、華家人丁興旺、因名華家道地。	97
49-7	徐氏	清道光初	慈城東鎮橋	裘市鎮徐家庄村、西北11.3km、西北1.5km	清道光初、有徐某從慈城東鎮橋來此定居。繁衍成村、遂名徐家庄。		176
49-8	徐氏	清道光7年	?	半浦鄉陸高地村、西北13.5km、東北0.6km	今居戶主姓徐、徐姓先世于清道光七年遷此定居。	始居陸姓、處平原高地、故名。1968年陸姓外遷。其名沿用。	225
49-9	徐氏	清道光間	東郊鄉徐家村	東郊鄉小徐家村、東2.7km、東北0.6km	以主居徐姓得名。徐姓于清道光間自鄰村徐家分居于此、故名小徐家。		254
49-10	徐氏	明末清初	洪塘鎮洋市村徐家	西郊鄉馬郎橋村、西北3.8km、西北2.3km	系徐姓世居、于明末清初從洋市徐家遷此。	村后有壓石橋、名馬郎橋、村以橋得名。	90
49-11	徐氏	清中葉	東郊鄉大土墩村	城內月湖	鄉飲賓徐賓嘉、字尚友。	其遷鄞始祖為徐志漢、奉徐偃王為出祖。	300
49-12	徐氏	清	?	集仕港九河橋	例授迪功郎徐鳳庭。		301
49-13	徐氏	清	東郊鄉大土墩	東郊鄉驚駕橋村、東2.2km、北0.8km	明清時稱金家橋、以始居金姓得名。后徐史傳陳諸姓聚居…徐姓系大墩徐家分居于此、已7代。		254
49-14	徐氏	民國27年	寧波	半浦鄉嚴家池頭村、西北14.5km、西北1.2km	民國27年又有徐姓寧波避難至此。		227
49-15	徐氏	民國32年	半浦鄉陸高地村	半浦鄉橫河頭村、西北15.2km、西北1.4km	民國32年又有徐姓由鄉內陸高地遷來。		227
49-16	徐氏	民國初年	乍山鄉蘇梁	半浦鄉陳庠庄村、西北14.2km、西北1.2km	民國初年、又有徐姓自乍山鄉蘇梁遷來。	始居陳姓、陳氏先世清初自庠東遷此定居、故名。	227
50-1	桂氏	清道光咸豐間	慈城	慈城鎮桂家村、寧波西北11.1km、東南4.6km	桂氏先祖原住慈城、清道光咸豐間偶游姜湖、見其地鍾靈毓秀、景色優美、遂購地建房、定居后發展成村、村以姓氏得名。		138
50-2	桂氏	清	慈溪	北郊鄉桂家村、東北5.2km、東1.2km	以始居桂姓得名、桂氏先世清時自慈溪遷此。		201

51	烏氏	明末清初	河南潁川	北郊鄉烏陰村、東北5km、鄉北0.7km	以烏姓始居、故名。烏姓先世河南潁川望族、明末清初有兄弟逃荒來此、以燒窯為業、建成村落。		東烏・西烏于1951年於建庄橋飛機場時廢。	205
52-1	華氏	清康熙間	鄧縣樸社鄉	西郊鄉華家道地村、西4km、西南3.5km	華姓于清康熙間從鄧縣樸社遷入。		華徐二姓世居、徐姓建有一較大道地(晒場)、華家人丁興旺、因名華家道地。	97
52-2	華氏	清	鎮海	鄞城小梁街	庠生華岳、字德夫、為宋承事郎華原泉二十世孫。			282
53-1	袁氏	清	本県白岳鄉	城內虹橋弄	例授迪功郎袁光麟。		西殿廟弄袁氏亦屬此派。為宋政和間由奉化遷白岳始祖袁天錫之后。	300
53-2	袁氏	1908年	寧海縣橋頭胡鎮外袁村	雲湖鄉金沙畝村、西北20.7km、東北1.3km	木匠作袁家、系1908年袁氏兄弟三人從寧海橋頭胡外袁村來此、修建會龍庵后、在此定居開木作坊。			143
54	連氏	清康熙間	慈溪縣觀海鎮	鄞城鎮安橋	連大運、字帷蓊。			284
55-1	馬氏	清順治間	鄞縣高橋鎮黃泥壩	西郊鄉馬園村、西1.5km、南1.5km	清順治間從鄞縣高橋黃泥壩遷此。		光緒鄞縣志引敬止錄載、馬園相伝史綱遠園、或云方國珍在養馬、又伝清時為后營游擊署牧馬之地。	96
55-2	馬氏	清乾隆間	庄橋鎮馬徑	西郊鄉馬家村、西北3.4km、西北1.9km	以姓得名村、馬姓于清乾隆間從庄橋馬徑遷此。			90
55-3	馬氏	清乾隆年間	奉化縣龍頭墩	西郊鄉馬家塘村、西南2km、南2.6km	馬姓于清乾隆年間從奉化龍頭墩遷此。			98
55-4	馬氏	清道光年間	城西門外	咸祥鎮	馬德章・馬德才(兄弟)			277
55-5	馬氏	清	?	潘火鄉秦家畝	馬乘六			277
56-1	張氏	清康熙間	橫溪顏家庄	咸祥鎮	張慶安		清刑部郎中張翼為其后。	293
56-2	張氏	清康熙間	本県西郊鄉石灰埠頭	茅山鄉西鮑	張可成		其地本鮑氏旧宅、后因衰竭為張氏居之、鄉人仍稱西鮑。	293
56-3	張氏	清康熙間	福建	西郊鄉南張家岸村、寧波西2.9km、西1.6km	張姓于清康熙間從福建遷此。		南張家岸在河之南、北各建一村、河之北為北張家岸、后因祖屋焚、村廢。	94
56-4	張氏	清康熙間	鄞縣茅山鄉張家	福明鄉下張村、東北5.3km、北3.4km	張姓于清康熙間自鄞縣茅山張家遷來。			260
56-5	張氏	清乾隆間	餘姚江岸邊	西郊鄉張家岸、西北4.3km、西北2.8km	張姓于清乾隆間、從餘姚江岸邊遷此。		村在江岸邊、世居張姓、故名張家岸。	90
56-6	張氏	清乾隆間	西郊鄉新張家墳	西郊鄉新張家村、西3.9km、西南3km	張姓于清乾隆年間從張家墳分遷來此而得名。			97
56-7	張氏	清咸豐4年	裘市鎮	半浦鄉希賢房村、西北13.8km、西南1.9km	現村民有鄭張王朱諸姓、張姓于清咸豐四年從裘市遷此。			229

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

56-8	張氏	清光緒間	寧海	慈城鎮芭籬張村、西北偏北13.8km、東3.2km	張姓于清光緒間從寧海遷來。	因村周圍以前曾圍有籬笆、村民都姓張、故名芭里地張(光緒慈溪縣志)。	135
56-9	張氏	1958年	北郊鄉路林	北郊鄉新張家村、東北7.4km、東3.3km	1戸4人、居戶張姓、原住路林村、1958年遷移來此。	又名鷺林、為前葉・后葉・前吳家・后吳家・上庵墾5箇自然村的總稱。	207
56-10	張氏	清初	餘姚(江)	裘市大西垵張家村、西北10.7km、西南1.9km	清初一張姓漁民在餘姚江捕魚、因船翻無處安身、就上岸搭棚住下、捕魚種田、逐漸發展成村。	村旁姚江邊有大座大西垵、故名大西垵張家。	177
56-11	張氏	清初	庄橋鎮馬徑	庄橋鎮后張村、北7.5km、東北2km	清初、自馬徑分居于此、因位于馬徑之北、故稱后張。		184
56-12	張氏	清朝中期	?	裘市鎮支浦張村、西北9.3km、南1.8km	清朝中期、一張姓漁人漂泊到此、在沙灘上搭建草屋定居、逐漸發展成村、村旁有支浦通餘姚江、故名。		178
56-13	張氏	清	布政鄉張家潭	鄞城鎮明嶺	張聖壁、為張時徹之后。		292
56-14	張氏	清	東吳鄉生姜漕	東吳鄉生姜漕	張維賢	槎湖張氏	292
57-1	曹氏	清康熙50年	?	城內月湖橋下	曹士良受浙江提軍幕府之聘請從至城內月湖橋下。	其裔孫分居城西北隅楊家橋及江北岸浮石亭	303
57-2	曹氏	清康熙間	鄞東潘火鄉曹隘曹王廟	西郊鄉仲家橋村、西南3.7km	曹姓在清康熙間從鄞東曹隘曹王廟遷來。		98
57-3	曹氏	清同治間	慈城鎮湖下漕	半浦鄉江口村、西北12km、東南1.3km	曹姓于清同治間由慈城鎮湖下漕分居來此。	居戶有陳曹兩姓、陳姓于明嘉靖間遷此。	228
57-4	曹氏	光緒以前?	鄞東潘火鄉泗港曹隘	北郊鄉曹隘村、東北6.3km、東北1.8km	光緒鎮海縣志稱曹隘、始居曹姓、曹氏先世自鄞東潘火鄉泗港曹隘遷此、故名。		204
57-5	曹氏	清	西郊鄉西成村	樸社鄉新豐橋	曹鳳貴自本縣西成遷徙樸社鄉新豐橋。		303
57-6	曹氏	清	鎮海縣西管鄉外曹(今稱外漕)	北郊鄉東漕村、東北7.3km、北3.1km	曹姓于清時自西管鄉外曹分遷來此。	民國鎮海縣志稱東曹。村以曹姓世居、位処外曹村之東、故名。	203
58	章氏	清道光年間	福建	東郊鄉洞橋頭村、東南3.5km、東南1.5km	章姓于清道光間自福建遷此。		256
59	梁氏	清	紹興	江東區東郊鄉鈔坊巷	梁美生	光緒進士工部主事梁秉年為其后。	303
60-1	盛氏	清初	橫溪鎮	朝陽鄉舒周	盛君宰		303
60-2	盛氏	清	鎮海武衙橋	城內鎮明嶺	清歷任四川・江西學政盛炳緯、字星旋	盛炳緯為宋建隆進士官工部尚書封康靖侯諡肅敏盛吳之后。	303
61	許氏	清	餘姚市潘家島口	妙山鄉廟后許家村、西北18.9km、西1.8km	許姓世居、故名。許姓由今餘姚市潘家島口遷來、已150多年。	村居陳君廟東北、又因村在黃吉浦(河)西岸、曾用名河西許家。	152

62-1	陳氏	清順治間	?	梅嶺鄉芝山	陳道	其裔有分居于九龍農及萊公山者。		290	
62-2	陳氏	清順治間	本縣四古庄对河元宝漕	東吳鄉生姜漕	陳元茂、字君盛、為避虎患遷居。	有分居東吳鄉史家灣、羊角田、西鄉等處者。		290	
62-3	陳氏	清康熙18年	?	平清鄉廟后陳村、西北13.2km、東南0.6km	村民主姓陳、清康熙十八年遷此。				228
62-4	陳氏	清康熙53年	慈溪東鄉田舍村	城內迎鳳橋	例授登仕郎陳德河自慈溪東鄉田舍村遷居城內迎鳳橋。其先世原自鄞姜山遷田舍、陳德河復遷鄞、先居月湖花果園廟、后其孫陳士才卜居迎鳳橋。	清江蘇即補知州陳政鑰、同治進士刑部主事陳兆翰、光緒翰林知福建永春直隸州陳受頤、同治進士刑部員外郎知江蘇昭文縣陳康祺為其後。		291	
62-5	陳氏	清康熙間	鎮海	鄞城天一街馬眼漕	太學生陳美芝、字香谷。	西鄉乙未坊后河陳氏亦屬此派。陳美芝為元季避兵亂而自會稽遷鎮海始祖陳珏遷六世孫、珏遜、字哲宜、世稱白雲先生。		290	
62-6	陳氏	清康熙間	鄞縣茅山陳家	福明鄉陳家村、東6.3km、東北2.5km	因世居陳姓而得名、陳姓于清康熙間自鄞縣茅山陳家遷此。至今10代。				263
62-7	陳氏	清康熙間	鄞縣望春鄉樓下陳家	西郊鄉方家村、西北4.2km、西北2.6km	陳姓于清康熙年間、從鄞縣望春鄉樓下陳(壳面橋)陳家遷此。	陳姓世居、因建村于方家土地上、以地得名。			91
62-8	陳氏	清康熙間	鄞縣姜山鎮	西郊鄉陳家漕村、西北3.7km、北2.2km	陳姓世居、村西有河漕、故名陳家漕、陳姓于清康熙間從鄞縣姜山遷此。				90
62-9	陳氏	清康熙末年	西郊鄉陳家漕村、寧波西北3.7km	灣頭鄉前東村、西北3.2km、西1.6km	系西郊鄉陳家漕于清康熙末年分遷來此、在原陳家漕東、稱東村。	嗣后、東村北約300米處又建一村、向村均陳姓家族、為示區別、東村改稱前東村。			211
62-10	陳氏	清康熙雍正間	鄞縣姜茅山	費市鎮橫路陳村、北11.3km、北1.7km	掘伝、康熙雍正年間、有鄞縣姜茅山陳姓到此演木偶戲定居于此。	后子孫繁衍、形成村落。			194
62-11	陳氏	清乾隆間	鄞縣姜山	東郊鄉洞橋頭村、西北3.3km、西北3.9km	陳姓世居、陳氏于清乾隆間從鄞縣姜山遷此。				91
62-12	陳氏	清乾隆間	鄞縣姜茅山	西郊鄉陳河沿村、西北2km、西0.5km	陳姓于清乾隆間、從鄞縣姜茅山遷此。	村又座落河沿、故名。			94
62-13	陳氏	清乾隆年間	鄞縣裘市鎮橫山頭陳家	西郊鄉楊家村、西北4.2km、西北2.7km	因村南旧有楊家橋而得名、清末橋西北建萬家大坟、橋由萬家重修、改名萬慶橋、陳姓世居、清乾隆年間從鄞縣橫山頭陳家遷此。	又因村三面環河、地形偏尚、亦稱楊家境。			91
62-14	陳氏	清乾隆間	鄞縣龍觀鄉桓村	龍觀鄉觀頂	陳沛成	觀頂以外又有上半山、下半山二族皆姓陳、其祖及名均失伝。相伝自福建來。		290	

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

62-15	陳氏	清嘉慶年間	東吳鎮	東郊鄉洞橋頭村、東南3.5km、東南1.5km	陳姓于元大德年間自鄞東大嵩遷至東吳、其二十一世孫于清嘉慶間分居于此。			256
62-16	陳氏	清咸豐以前	?	北郊鄉上陳村、東北7km、北2.7km	光緒鎮海縣志称上陳隔田、属西管鄉四都二因、有陳姓世居。	清咸豐間有一支遷居西管鄉五都、称楼下陳、故名上陳。		203
62-17	陳氏	清咸豐間	北郊鄉上陳村	北郊鄉楼下陳村、東北7.2km、北3.1km	居戶多陳姓、陳氏先世于清咸豐間自上陳分此、建有樓房、故称楼下陳。		清末樓房毀于火。	202
62-18	陳氏	清光緒間	北郊鄉大屋陳家村	北郊鄉中陳村、東北8.8km、東5km	始居陳姓、清光緒間自大屋陳家分遷至此。			208
62-19	陳氏	清光緒間	黄巖縣	半浦鄉東宅村、西北12.4km、東南1.5km	村処江西村之東、始居陳姓、与江西陳姓同宗、故称東宅。			228
62-20	陳氏	清光緒間	黄巖縣	半浦鄉江西村、西北12.5km、東南1.3km	村民主姓陳、与東宅陳同宗、清光緒間自黄巖遷來。			229
62-21	陳氏	清初	茅山鄉走馬塘	茅山田畝陳	陳応聘			289
62-22	陳氏	清初	茅山鄉走馬塘	金峨鄉田隴村	陳楨			289
62-23	陳氏	清初	広東	半浦鄉陳広庄村、西北14.2km、西北1.2km	始居陳姓、陳氏先世清初自広東遷此定居、故名。			277
62-24	陳氏	清中葉	鎮海周隘陳	宝幢鄉明堂及沙堰河頭	陳世爵			290
62-25	陳氏	清	鄞東洪塘鎮陳家弄	江東區華嚴街	陳奉珠、舜英		東勝街陳氏亦属此派。其出祖名良、字大德、世居鄞東陳家弄、陳家弄陳氏族望有正德華人知県陳賦嘉、清進士僉事陳大章。	290
62-26	陳氏	清	慈溪縣龍山鎮金夾畝	寧波西北19.2km、妙山橋西北1.1km、妙山鄉汪家村	陳姓由金夾畝來此、做長工后定居、約遷200多年。		天啓慈溪縣志已載有汪家。	147
62-27	陳氏	清	寧波東北7.9km、鄉東3.6km、北郊鄉老陳家庄村	北郊鄉新陳家庄村、東北7.5km、東3.2km	陳氏先世元時自河南潁川遷居鄞縣姜山。明時又移居來此。后子孫繁衍、又析居村東、称新陳家庄。		光緒鎮海縣志称陳家庄、民国鎮海縣志称老陳家庄(析居是清光緒以降)。	206
62-28	陳氏	清	茅山鄉花園村	寧鋒鄉唐頭山	陳韻晶	分三房、大房和第三房居花園村。		289
62-29	陳氏	1949年	福明鄉前陳村	福明鄉汪家村、東5.2km、北1.8km	因始居汪姓而得名…陳朱兩姓于1949年自鄰村前陳・朱家遷此。			264
62-30	陳氏	1958年	陳広庄(鄰村)	半浦鄉周家庄村、西北14.6km、西0.4km	1958年又有陳姓自陳広庄遷來。		村世居周姓、以姓氏得名、周氏先世清時自慈城周家分此。	227

62-31	陳氏	?	寧波西北3.2km、鄉西1.6km、灣頭鄉前東村	灣頭鄉后東村、西北3.5km、西1.6km	村民陳姓。因位于前東村北約300米处、建村較后、故名后東村。			211
62-32	陳氏	?	三北掌起橋	妙山鄉上皇橋、西北19.7km、西北2.1km	村居陳馮二姓、陳姓從三北掌起橋遷來、較早。			148
62-33	陳氏	?	餘姚市丈亭	慈城鎮前謝村、西北12.7km、南3.2km	村以姓氏得名、建村在300年前。現村中已無徐謝兩姓。以餘姚市丈亭遷來之陳姓為主。			136
63-1	陸氏	清道光年間	費市鎮居呂陸村	費市鎮帳房陸家村(西陸)、北10.6km、北1km	清道光年間、居呂陸之陸姓帳房住此、故名。			194
63-2	陸氏	清道光年間	費市鎮帳房陸家(西陸)	費市鎮東陸村、東北10.4km、東北1km	清道光年間、由帳房陸家(西陸)分居于此、因位于東、故名。			194
63-3	陸氏	清道光以前?	福建	半浦鄉黑白屋村、西北15km、西北1.3km	村始居陸姓、据伝陸氏先祖在閩經營木行發迹、挾此營建木結構樓房一幢、外牆塗黑色。	清道光間陸氏之外甥張姓又于北首建高樓一幢、外塗白色、稱白屋。		226
63-4	陸氏	清初	鄞城月湖西錦里	宝幢鄉	陸胤禎、字君明。	其弟胤隆、從弟胤嘉分居河泊所。	胤禎為月湖始祖陸元十三世孫、奉唐宣公陸贄為自出祖。清光緒進士礼部主事知湖南新田縣、倣胤陸仰賢為其后。	291
63-5	陸氏	清初	慈城鎮白米灣村	半浦鄉張陸村、西北15.3km、西北1.5km	村以張陸兩姓得名、据伝村始居張姓、称張家、清初慈城白米灣村陸姓入贅張姓為婿、子孫繁衍、改称張陸。			226
63-6	陸氏	清初	福明鄉	福明鄉威陸橋村、東5.1km、北1.1km	始居丁趙陸蔡虞五姓、均于清初自鄰村遷來。		村頭有橋、為戚氏所建、村以橋得名。	264
63-7	陸氏	清中葉	慈溪陶家山	鄞城江東	太學生陸士達、号東峨、精于岐黃術。		其先原由慈溪周巷遷陶家山、亦為唐宣公陸贄之后。	291
63-8	陸氏	清	月湖	白岳鄉西陸	陸欽公	其裔有遷居鎮海關前壘者。	其先由山陰遷鄞橫溪、由橫溪遷月湖。	291
63-9	陸氏	清?	河南	東郊鄉矮柳村、東南4.1km、東南2.3km	陸姓自河南遷來、至今已8代。			256
63-10	陸氏	民国25年	餘姚	半浦鄉時家村、西北12km、東南0.5km	又有村民陸姓、民国25年由餘姚遷此。			228
64-1	黃氏	清康熙間	西郊鄉境黃家灣	西郊鄉泗港口村、西北3.4km、西北1.9km	黃姓世居、黃氏于清康熙間從鄉境黃家灣分遷至此。			91

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

64-2	黃氏	清乾隆間	望春鄉樟樹下	西郊鄉進士壩門村、西北4.8km、西北3.4km	現居黃姓于清乾隆間從望春鄉樟樹下遷此。		倪姓于清康熙間遷此、建有進士第、故名、今倪姓外遷、只剩一戶。	92
64-3	黃氏	清乾隆間	寧波城內四府前黃家	西郊鄉前王村、西3.2km、西南2.4km	黃姓于清乾隆間從寧波四府前黃家遷此。		因村建于后王之南、故名前王、由于本地区黃王同音、民國時期設置門牌時、誤為前王、沿用至今。	95
64-4	黃氏	清乾隆間	寧波城內四府前黃家	西郊鄉朱家漕村、西3km、西南2.2km	太平天国時焚毀、后朱姓外遷、黃姓于乾隆間、從四府前黃家遷入。		朱姓于清康熙間從鄞縣藕襪橋遷此。	96
64-5	黃氏	旧時?	福建	城內南昌巷位姚江南岸、新江橋南塊	旧時閩入黃姓在巷口開設南昌南貨号、故名。			80
65	舒氏	清	奉化大橋	庄橋鎮舒家村、北6.5km、西1.1km	宋末葛氏自福建遷此、至清、又有舒氏后于葛氏、遂称舒后葛、舒氏子孫繁衍、為村之主姓、故称舒家。			184
66-1	傅氏	清天命年間	鄞縣五鄉硤益新鄉傅家墳	西郊鄉傅家墳、寧波西4.1km、西3.2km	傅姓于清天命間、于姓從鄞縣五鄉硤益新鄉傅家墳遷此。		村建于河南側呈塊狀、墳、阜也。村建于瀕河地勢高隆處、故名傅家墳。	95
66-2	傅氏	清初	?	福明鄉傅家村、東5.3km、北1.5km	清初傅姓王姓遷入。		宣統年間傅姓裔族出任永嘉縣令、遂在傅家建造庠堂、子孫繁衍而張姓衰落、從此改名傅家。	264
66-3	傅氏	清	鄞縣五鄉鎮	東郊鄉惊駕橋村、東2.2km、北0.8km	傅姓自鄞縣五鄉鎮遷此、已6代。			254
66-4	傅氏	清	城內鑾橋里	鄞東福明鄉周泗漕游馬橋	中議大夫知府銜加二級傅天成、為宋七品散官南渡屢遷鄞縣鑾橋里始祖傅恩齊十三世孫。	其裔孫分居諸暨及順天宛平縣。	此派傅氏有狀元傅行簡、在鑾橋西傍有狀元橋、天封塔下狀元坊。	305
67-1	屠氏	清	江北岸桃花渡(明州東城門)	樂社鄉屠家墳	屠惟	其裔孫有分居大隱、山北等處。		304
67-2	屠氏	清中葉	江北岸	東吳鄉平畝	屠敬三			304
68	曾氏	清	奉化	江東在警駕橋	鄉款賓曾存性、字秉良。		曾氏世居江西贛州、后遷福建汀州寧化、復由寧化遷上杭、再自上杭遷奉化、奉化始祖曾文習卒于中峰山。	305
69	智氏	清	?	灣頭鄉后朱村、北4.1km、北偏東1.3km	智姓最早在此定居、已百余年。		原称后智、因智朱当地音近、智姓又不多見、逐漸演化為后朱。	212
70-1	葉氏	清康熙間	慈溪鳴鶴場	鄞城尚書街	葉申之			280

70-2	葉氏	清雍正間	慈溪金川鄉湖塘下市(今餘姚市二六市鄉)	乍浦鄉葉家村、西北17km、東1.7km	以主姓命名、葉氏先祖于清雍正年間從慈溪金川鄉湖塘下市葉家分遷于此。		村原名双頂山翁家灘、后翁氏衰落、葉姓繁衍、遂名葉家。		
70-3	葉氏	清乾隆間	外地	西郊鄉馬園、西1.5km、	葉姓于清乾隆間從外地遷入。		現劃入城區建重住宅。		96
70-4	葉氏	清嘉慶間	定海縣	城內水鬼橋	清康熙葉機以捕海盜官至知高郵州、海州。			280	
70-5	葉氏	清?	鄞縣朝陽鄉翻石渡	東郊鄉任葉村、東南2.3km、南2.9km	居戶多任葉兩姓、故名。葉氏自鄞縣朝陽鄉翻石渡遷此。已7代。				258
70-6	葉氏	清?	慈溪獅子橋	妙山鄉葉家村、西北20km、北2.1km	村以姓氏得名、葉姓從慈溪獅子橋遷來、已8代。				148
71	費氏	清乾隆年間	費市鎮	乍浦鄉黃徑堰村、西北17.3km、南1km	主姓費、清乾隆年間、祖上從費市遷此。				221
72-1	馮氏	清初	慈城	裘市鎮橫山頭村、西北11.9km、西北2.1km	宋末元初、有馮姓者為避戰亂從山東南來慈城落戶、約300年後又由慈城分支遷此。		繁衍成村、因村処橫山過來的頭一箇聚落、故名橫山頭。		175
72-2	馮氏	清雍正間	慈城	裘市鎮馮家村、西北10.1km、西南1.4km	清雍正間從慈城遷此、以姓氏名村。				177
72-3	馮氏	清嘉慶24年	慈城	半浦鄉橫河頭村、西北15.2km、西北1.4km	村民主姓馮、清嘉慶二十四年自慈城分此。				277
72-4	馮氏	清嘉慶間	對河小馮家漕	西郊鄉新張家村、西3.9km、西南3.2km	清嘉慶間又有馮姓從對河小馮家漕合并過來。				97
72-5	馮氏	清道光7年	慈城后地畝	半浦鄉東江沿村、西北13.5km、東北1.3km	村民主姓馮洪、馮姓為慈城后地畝馮家分支、道光七年遷此。				225
72-6	馮氏	清咸豐年間	慈溪縣城	西郊鄉馮家邊、西北2.1km、偏西0.7km	馮姓于清咸豐年間、太平天国起義時期從慈城遷此。		因村建河辺而得名。		94
72-7	馮氏	清光緒間	慈溪	鄞城水浮橋	清慈溪人馮允驤自慈溪遷至鄞城水浮橋。			281	
72-8	馮氏	清	?	妙山鄉浮上橋村、西北19.5km、北2.3km	馮姓、太平天国時遷來。				149
73-1	楊氏	清康熙間	慈城北門	庄橋鎮楊家村、西北5.1km、西南3.6km	世居楊姓、故名。楊氏先祖于宋時、自河南遷慈城北門外定居。有楊氏宗祠、稱世志堂楊家。清康熙間、其裔孫分徙至此。		因村処姚江北岸、又名江沿楊家。又因村有陳楊兩姓始居、亦稱楊陳。		189
73-2	楊氏	清乾隆間	西郊鄉前六畝村	西郊鄉三眼橋村、西北偏西3.5km、西2.1km	楊姓自前六畝大戶火焚后、于清乾隆間、部分子孫遷此。				93
73-3	楊氏	清乾隆間	西郊鄉前六畝村	西郊鄉藕池頭村、西北3.7km、2.3km	楊姓自前六畝大戶被焚后、清乾隆間、部分子孫遷此。				93
73-4	楊氏	清乾隆間	鄞西樓社鄉東楊·西楊	西郊鄉南周江岸村、西南2.5km、南2.9km	楊姓于清乾隆間、從鄞西東楊·西楊遷入。		原先有周楊虞費李等姓集居、以周姓最興旺、又因村有周江岸、現住戶以楊虞二姓為主。		98

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

73-5	楊氏	清嘉慶間	半浦鄉 赭山楊陳村	半浦鄉楊界村、西北12.4km、東南1.5km	始居楊姓、故名。楊姓清嘉慶間由赭山楊陳村分遷至此。			228
73-6	楊氏	民國30年	餘姚大隱姜岱	半浦鄉田洋朱家村、西北13.8km、西南1.4km	始居朱姓、村建于田阪間、故名。民國30年又楊姓自餘姚大隱姜岱遷此。			227
74-1	葛氏	清同治中	庄橋鎮	城內石板巷	大河衛綰惟午			305
74-2	葛氏	清初	庄橋鎮	庄橋鎮韓葛村、北5.2km、東2.7km	主姓韓葛、以姓得名、清初韓姓自慈溪韓家、葛姓自庄橋遷此定居。			187
75-1	董氏	清	鄞縣茅山鄉董家跳	洞橋鄉沙巷口	董九岳、為董家跳第十六世董五服之子。			304
75-2	董氏	清	鄞縣茅山鄉董家跳	鍾公廟鄉董家	董礼麦			304
75-3	董氏	清	奉化縣廟山	集仕港鎮董家橋	董艾	其裔孫分居朱家庄・廟家庄・小董家東岸・關墩頭及鎮海盡岩等。		304
75-4	董氏	清?	?	東郊鄉后章家橋村、東南3.2km、東南1.2km	董姓居此已有7代。			256
75-5	董氏	民國時	餘姚	半浦鄉半浦村、西北13.2km、南2.3km	又有村民董姓、民國時自餘姚遷來。			229
76-1	虞氏	清乾隆年間	鄞西壁蛟鄉前虞墳	西郊鄉南周江岸村、西南2.5km、南2.9km	虞姓于清乾隆年間、從鄞西前虞墳遷入。			98
76-2	虞氏	清咸豐3年	寧波念条橋	半浦鄉周家漕村、西北15.7km、西北1.9km	始居周姓...又有虞姓自寧波念条橋遷來。			226
76-3	虞氏	清咸豐間	鎮海龍山虞家	洪塘鎮虞家村、西北12km、西北2.4km	徙居虞姓于清咸豐間從鎮海龍山虞家遷入。	虞氏先世籍商致富、于此置田建宅立村、有老虞家・新虞家・統稱虞家。		160
76-4	虞氏	清初	隣村	福明鄉戚隘橋村、東5.1km、北1.1km	始居丁趙陸蔡虞五姓、均于清初自鄰村遷來。	村頭有橋、為戚氏所建、村以橋得名。		264
77	裘氏	清嘉慶14年	温州	半浦鄉堵江橋村、西北16km、西北2.3km	今村民主姓徐裘...裘姓于清嘉慶十四年自溫州來此。			226
78	鄒氏	清初	餘姚→鄞縣鄒溪→陳婆渡鄉高塘橋	東郊鄉鄒家村、南3.2km、西南3.2km	以姓氏得名、鄒氏自餘姚遷至鄞縣鄒溪、其后又居鄞縣高塘橋、清初分三支、一支遷此、建村約300余年。			257
79	廖氏	清	福建	城內大尚書橋下	廖奇白、從事靛青業自福建至甬			307
80	甄氏	清	?	灣頭鄉甄隘村、北3.8km、東北1.3km	甄姓最早來此定居、約已200年、故名甄隘。			212
81-1	管氏	清康熙間	寧波城內柳庄巷	西郊鄉前管漕村、西2.6km、西南1.7km	管姓于清康熙間從寧波柳庄巷遷此。	与管江岸管姓同族、因建村早于管江岸、故名前江岸。		95

81-2	管氏	清乾隆間	西郊鄉前管漕	西郊鄉管江岸、西2.4km、西南1.5km	祖住寧波柳庄巷、建有祠、清康熙間分遷至前管漕、清乾隆初再分遷來此。			95
82-1	裴氏	清	寧餘鄉裴巷	龍巖鄉羅溪	裴國孝	其裔分居奉化葛麻坑	裴氏先祖居南京、后相繼遷河南·杭州及鄭裴巷。	307
82-2	裴氏	清乾隆間	奉化縣江口裴夾巷	西郊鄉園境村、西2.2km、西南2.1km	北首稱后園境、裴姓居住、清乾隆間從奉化江口裴夾巷遷入。		境伸出水中之陸地。境者、方言則洲也。	96
83-1	趙氏	清咸豐間	東西新河塘	龍巖鄉后陸	趙元勳			297
83-2	趙氏	清咸豐同治間	慈溪東鄉	西門外	趙其天、字佐衡、号半帆		城內大廟前、呼童街、王陸趙氏均屬此派。奉宋燕懿王十世孫忠憲公為一世祖。	297
83-3	趙氏	清初	慈城	裘市鎮趙家村、西北8.3km、東南1.5km	清初趙姓從慈城遷來、以姓氏名村。			178
83-4	趙氏	清初	臨村	福明鄉戚隘橋村、東5.1km、北1.1km	始居丁趙陸蔡虞五姓、均于清初自鄰村遷來。		村頭有橋、為戚氏所建、村以橋得名。	264
83-5	趙氏	清	鎮海縣穿山鎮	鄞城天朝師相第	修職郎趙振先		湖頭趙氏亦屬此派。	297
83-6	趙氏	民國初	餘姚侯青門	半浦鄉塘路下村、西北14.5km、西南2.3km	趙姓于民國初自餘姚侯青門遷來。			228
84	鄒氏	清	鎮海四管鄉烏隘	鄞	鄉飲賓鄒聖開。	其裔散居城內及西門外、其第一支亦分居城內。		282
85-1	錢氏	清光緒間	?	裘市鎮錢家村、西北8.3km、南1.9km	清光緒間、錢姓來此定居、發展成村、遂名錢家。			179
85-2	錢氏	民國28年	餘姚	半浦鄉宋家灣村、西北14.4km、西南1.7km	民國28年又有錢姓自餘姚遷此定居。		村始居宋姓、宋氏先世自餘姚陸埠遷來。	227
86-1	劉氏	清初	福建	洪塘鎮劉馬湖村、西北9.1km、西南1.7km	揭伝劉姓清初時自福建遷此、建有劉氏宗祠。		光緒慈溪縣志稱劉馬湖、村以姓氏得名、今村民主姓劉、無馬胡兩姓、劉馬湖為劉馬胡之諧音演化。	165
86-2	劉氏	清初	?	鍾公廟鄉金家漕	劉宏道。	其裔係有分居城東舟孟橋及城內小倉者。	清光緒舉人崇崇書院山長劉鳳章為其后。	283
86-3	劉氏	清	?	茅山鄉劉家	劉思通	其裔有遷鎮海昆亭者。		283
87	厲氏	清	定海	鄞柳庄乙未坊	厲學潮、字慕璣、附貢生、厲署江蘇荆溪華亭元和縣兼署長洲縣知縣。			280
88	樂氏	清乾隆年間	鎮海縣洪浦	寶幢鄉	樂雍順、字德富			280
89-1	潘氏	清	本縣西門外	姜山鎮潘家	潘汝德			307
89-2	潘氏	清		(居)管江鄉葉公山	潘氏(名字失伝)			307

清代寧波沿海部における開發と移住 本田治

89-3	潘氏	清道光年間	?	寧波西北8.8km、洪塘南1.1km、洪塘鎮于家村	村民主姓于李潘、以始居于姓得名、于姓來歷無考、李潘兩姓于清道光間卜宅于此。		与高車頭潘姓同宗。		158
90-1	蔡氏	清乾隆間	餘姚	西郊鄉董孝子廟、西南2km、南2.3km	蔡姓世居、清乾隆間從餘姚遷入。		因建有祀漢和帝時孝子董黯之廟而得名。		98
90-2	蔡氏	清初	?	福明鄉戚隘橋村、東5.1km、北1.1km	始居丁趙陸蔡虞五姓、均于清初自鄰村遷來。		村頭有橋、為戚氏所建、村以橋得名。		264
90-3	蔡氏	?	鄞縣潘火鄉蔡家	北郊鄉蔡家村、東北6.9km、東北2.4km	以居戶蔡姓得名、蔡姓先世由鄞縣潘火鄉蔡家遷此。				204
91-1	蔣氏	清康熙間	奉化蔣家浦	西郊鄉劃船場、現劃船海曙區倉橋街道辦事處向陽居委會。	原蔣姓世居、于清康熙間從奉化蔣家浦遷此。		該處早年有龍船會、每逢農曆八月十六在此劃賽龍船、該村因此得名劃船場。		99
91-2	蔣氏	清光緒以前?	奉化溪口	洪塘鎮蔣家村、西北7.3km、南2.3km	村始居蔣姓、蔣氏先世自奉化溪口遷此。		光緒慈溪縣志稱大橋頭蔣家。		168
91-3	蔣氏	清?	奉化	妙山鄉蔣家坪、西北20.4km、西北2.3km	村以姓氏得名、由奉化遷來、已五代。				149
92-1	鄭氏	清康熙年間	慈溪半浦(今屬寧波市江北区)	西郊鄉王家橋村、西南2.6km、西南2.7km	現居鄭姓、清康熙年間從慈溪半浦來遷。		村西南原有王姓大塚、建有塚庄并建橋一座名王家橋、后鄭尹等姓、遷在塚庄附近定居、發展成村、村以橋得名。		98
92-2	鄭氏	清康熙年間	慈溪半浦(今屬寧波市江北区)	洪塘鎮鄭家村、西北5.3km、南4.8km	始居鄭姓、以姓氏得名、清康熙間鄭氏先世自半浦遷此。	后子孫繁衍、發展成村。			170
92-3	鄭氏	清	本県段塘鎮	城內筱塘弄	登仕郎鄭惟顯		段塘鄭氏自慈溪半浦來。		296
92-4	鄭氏	清咸豐間	餘姚	姜山鄉定橋、岐陽鄉高車頭	鄭氏(名失傳)				296
92-5	鄭氏	1958	半浦鄉半浦村	半浦鄉塘路墩村、西北12.88km、正南2.1km	村民主姓鄭、与半浦鄭姓同宗。		1958年大搞農田基本建設、築泥塘以防洪災、嗣后居戶陸續于塘墩建房、故名塘路墩。今有半浦糧站。		229
92-6	鄭氏	清	半浦鄉半浦村	寧波西北12.8km、祝家南2.3km、半浦鄉上新屋村	村民主姓鄭、清時自半浦分遷至此。		村南近餘姚江、稱上新屋、北首稱上新屋、今統稱上新屋。		229
92-7	鄭・翁・趙・鄭・余・邵氏	?	舟山	洪塘鎮留車橋村、北偏西11.8km、北2.7km	現今村民有鄭・翁・趙・鄭・余・邵姓聚居、擬傳其先均為舟山漁民、因捕魚至此。		沿河有街市。		160

93	穆氏	清	廣東	穆家巷、南起永壽街、折東通呼童街	拋伝、清時有廣東客戶穆姓來甬經商、建宅居此、后其裔孫遷返原籍、房宅出讓與劉姓、巷名未變。			63
94-1	韓氏	清	紹興	鄞城小校場口	韓炫、字旭如、奉母曹氏自會稽遷至鄞城。			304
94-2	韓氏	清初	慈溪韓家	寧波北5.2km、庄橋東2.7km、庄橋鎮韓葛村	主姓韓葛、以姓得名、清初韓姓自慈溪韓家、葛姓自庄橋遷此定居。			187
94-3	韓氏	1949年	慈城鎮	妙山鄉廟后張家村、西北19.2km、妙山橋西1.3km	村民多張姓、別有韓姓、1949年遷慈城鎮定居。			151
95-1	嚴氏	清天命(1616-20)間	鄞縣翁岩分遷至西郊鄉五江口	西郊鄉后孫村、西北4.4km、西北3.9km	后有部分遷此		現居嚴姓、祖籍福建、孫姓世居、以姓氏得名、孫姓于明成化年間鄞縣北渡遷此。	91
95-2	嚴氏	清康熙間	西郊鄉望春橋五江口	寧波西北4.3km、西北2.7km、西郊鄉嚴家村、	嚴姓于清康熙間、從望春橋五江口遷此。村以姓氏得名。			90
95-3	嚴氏	清康熙間	餘姚大隱石林	半浦鄉嚴家池頭村、西北14.5km、西北1.2km	清康熙間、自餘姚大隱石林遷此。			227
95-4	嚴氏	光緒以前?	鄞縣費市鄉嚴家	洪塘鎮大灘嚴家村、西北10.4km、北1km	拋伝嚴姓自費市鄉嚴家遷此。		茅洲開南、光緒慈溪縣志称大灘、因宋時建茅洲開改易河道、形成灘塗、故称大灘嚴家、亦称嚴家。	161
95-5	嚴氏	1949年~	餘姚	半浦鄉朱家沿村、西北13.5km、南0.8km	始居朱姓...朱姓元末明初自安徽鳳陽遷來。解放后又有嚴姓自餘姚來此。			228
96-1	繆氏	清乾隆間	餘姚三七市	半浦鄉繆家村、西北15km、祝家1.5km	以始居繆姓得名、据伝繆姓于清乾隆間自餘姚三七市移居來此。			226
96-2	繆氏	清道光年間	慈城十字旗(花園弄)繆家	裘市鎮繆龍江村、西北12km、西北2.3km	清道光年間繆姓從慈城十字旗(花園弄)繆家分遷來此建村定居。			175
96-3	繆氏	清	鍾公廟鄉繆家橋	城內浦石河頭	繆國聖、字君英			307
97	薛氏	?	鄞西布政鄉薛家	寧波西2.1km、西郊鄉薛家塘村	原系薛姓世居、從鄞西布政鄉薛家遷入、因開鑿一用水塘而得名。	本世紀60年代先後外遷。		96
98-1	謝氏	清	餘姚	龍觀鄉上孤山	謝國慶	有分居本鄉親頂者。		305
98-2	謝氏	1949年前后	?	福明鄉明樓村、東北3.8km、西北2.4km	李謝于1949年前后遷入。			262
99-1	鍾氏	清康熙間	鄞縣五鄉鎮鍾家沙	福明鄉鍾家村、東4.6km、北1.8km	因始居鍾姓而得名、鍾氏自清康熙間從鄞縣五鄉鍾家沙分居于此。			264

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

99-2	鍾氏	清乾隆年間	?	西郊鄉中塘路村、西4.3km、西3.1km	鍾姓世居、于清乾隆年間遷此。		村旁有中塘河、當時沿河築路、沿路建村。	92
99-3	鍾氏	民國29年	河西北郊鄉鍾家村	北郊鄉小鍾家村、東北6.7km、東北2.2km	始居鍾姓、民國29年自河西鍾家村分遷至此、故名。			204
100-1	戴氏	清康熙年間	城中	高錢鄉下王	戴輩清、為明四川巡撫戴暨曾孫。			307
100-2	戴氏	清康熙年間	莫枝鎮大堰頭	咸祥鎮廟墩上	戴國英(或名國威)			307
100-3	戴氏	清末	鄞東莫枝鎮戴錢湖	裘市鎮戴家村、西北8.6km、東南1.4km	清末戴某鄞東錢湖遷此、發展成村、以姓氏名村。			178
101-1	顏氏	清宣統年間	餘姚大隱	洪塘鎮桂巖村、西北12.6km、西北3.1km	顏姓于清宣統年間自餘姚大隱遷來。		今村民主姓桂巖。巖姓經商外遷、黃姓絕后。	159
101-2	顏氏	清光緒年間	庄橋鎮青林渡顏家	洪塘鎮双夾畝李家村、北偏西12.3km、北2.8km	始居李姓、村處于兩山畝間、故名。顏姓于清光緒間來自庄橋青林渡顏家。			160
101-3	顏氏	清末	慈城鎮徐顏	洪塘鎮趙家村、西北8.9km、北2km	村以始居趙姓得名、清末又有顏姓自慈城鎮徐顏遷來。			163
102	魏氏	清康熙年間	東郊鄉松下藤家	福明鄉史魏家村、東5.1km	魏姓于康熙年間自鄉內松下藤家遷于此。			260
103-1	羅氏	清?	坊沿羅家、西北18.8km、妙山橋北1.5km	妙山鄉浮上橋村、西北19.5km、北2.3km	現住羅姓、坊沿羅家遷此。			149
103-2	羅氏	清乾隆以前	餘姚羅江	妙山鄉坊沿村、西北18.8km、北0.8km	村民以沈姓為主、別有羅姓由餘姚羅江遷來。		有貢元門、乾隆間造、太平天國時毀。	151
103-3	羅氏	清道光年間	舟山沈家門羅家	福明鄉楊木碇村、東北6.4km、北3.9km	村有楊木碇、以碇得名。村中住戶多羅翁王三姓…羅姓清道光間自舟山沈家門羅家遷入。			261
104	蘇氏	清乾隆年間	石碇張鑾橋蘇家	西郊鄉竺江岸村、寧波西2.7km、西南2.4km	蘇姓于清乾隆年間從石碇張鑾橋蘇家遷入。			97
105	顧氏	清嘉慶年間	?	灣頭鄉顧家村、北3.8km、東北1.3km	清嘉慶間顧姓定居于此、故名顧家。			212
106	龔氏	清乾隆年間	餘姚陸家埠	西郊鄉龔家村、西北4.0km、北2.6km	因龔姓世居而得名、龔姓于清乾隆間、從餘姚陸家埠遷此。			90

表2、清代寧波沿海部（鎮海縣）における遷住

番号	姓	移住時期	出身地	移住先	始祖	再移住	備考	鎮海縣志頁
1-1	王氏	清康熙年間	福建	貴驛鎮			貴驛前王王氏	179
1-2	王氏	清初	山西省	駱駝鎮龔李王			龔李王王氏	179
1-3	王氏	清初	慈谿縣三北鎮邱王	貴驛鎮蔣王	清初入贅成族。		蔣王王氏	179
2	包氏	清康熙年間	新碶鎮橫河包家	城閩鎮石塘下			石塘下包氏	186
3-1	任氏	清康熙年間	慈谿縣	楓林鄉			楓林任家	187
3-2	任氏	清乾隆年間	慈谿縣三北任家溪	莊市鎮長河塘			莊市長河塘任氏	187
4-1	朱氏	清康熙年間	鄞縣天封塔下	新碶鎮千丈塘			千丈塘朱氏	182
4-2	朱氏	清代	餘姚縣	楓林鄉朱街丁			楓林朱街丁朱氏	182
5	何氏	清康熙年間	山西省	莊市鎮何斗			莊市何斗何氏	185
6	余氏	清康熙年間	福建	貴驛鎮貴驛廟隔河		分派大市堰・駱駝火橋路頭・愛登・港塘・白塘・萬嘉橋。后又分支朱豐村飯山頭余・大市堰余・莊市半路張新余・周余等。	貴驛廟隔河余氏	185
7	吳氏	清初	莊市鎮三官堂	莊市鎮聯盟			莊市聯盟吳氏	182
8	宋氏	清	福建省莆田縣一慈谿縣（清雍正年間）	后復遷于莊市鎮宋家漚頭		分支有江南鄉山下宋氏。	莊市宋家漚頭宋氏	187
9	岑氏	清光緒年間	餘姚縣造路頭	俞范鎮灣塘海甸、甬江兩岸棉區一帶			灣塘海甸岑氏	186
10	杜氏	清初	舟山登步島	駱駝鎮團橋劉杜			團橋劉杜杜氏	186
11	李氏	清乾隆年間	鄞縣五鄉碶	楓林鄉			楓林李氏	181
12-1	阮氏	清	慈谿縣	莊市鎮			莊市阮氏	187
12-2	阮氏	清	鄞縣	大碶鎮		分支有新碶星陽。	大碶阮氏	187
12-3	阮氏	清	鄞縣	郭巨鎮			郭巨阮氏	187
12-4	阮氏	清	鄞縣	上陽鄉			上陽阮氏	187

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

12-5	阮氏	清	鄞県	白峰郷外峙			外峙阮氏	187
13	貝氏	清乾隆年間	貴驛鎮 慈橋貝家	莊市鎮貝陸朱樊	慈橋貝家、祖籍河北清河郡、南宋後期、有貝姓兄弟三人逃荒南來、后一居蘇州、一居奉化、一居比（鎮海慈橋）。	分支有小貝家、清初遷入、莊市貝陸朱樊貝家、清乾隆間遷入。	莊市貝陸朱樊貝氏	186
14-1	周氏	清乾隆年間	慈溪県東費市 跨塘周	貴驛鎮沙河田中央			沙河田中央周氏	181
14-2	周氏	清乾隆年間	河南省	俞范鎮跨塘			跨塘周氏	181
15	於氏	清初	慈溪県	鎮海県新碇鎮横河		有分派遷霞浦鎮東与礁磯（穿山西北霞浦東北）。	横川於氏	187
16-1	邱氏	清康熙年間	鄞県邱隘鎮邱王	汶溪郷里邱、外邱	汶溪里邱、外邱、均于清康熙年間自邱隘和邱王遷入。		汶溪里邱氏・外邱氏	185
16-2	邱氏	清道光年間	大碇鎮	臨江郷中謝	臨江中謝邱家、清道光年間由大碇遷入。		臨江中謝邱氏	185
17-1	林氏	清康熙年間	福建福清県	柴橋鎮水芹	柴橋水芹林家、清康熙年間由福建福清県遷入。		柴橋水芹林氏	182
17-2	林氏	清乾隆年間	福建	貴驛鎮	貴驛前・中・后林、清乾隆年間由福建遷入。		貴驛前林氏・中林氏・后林氏	182
18	竺氏	清中期	奉化県蕭王廟后竺	鎮海城区	城区竺家、清中期自奉化蕭王廟后竺遷入。		城区竺氏	187
19	俞氏	清乾隆初	鄞西黄古林俞家	鎮海県俞范鎮	俞范俞姓源出同宗、清乾隆初遷入。		駱駝俞家販俞家、明中葉自鄞西黄古林俞家遷入。俞范俞氏	183
20-1	姚氏	清初	慈溪県	貴驛鎮姚家水倉			貴驛姚家水倉姚氏	185
20-2	姚氏	清順治年間	慈溪県	下邵郷姚家斗			下邵姚家斗姚氏	185
21	施氏	清嘉慶年間	餘姚県施馬陳	駱駝鎮			駱駝田施氏	186
22-1	胡氏	清順治年間	安徽省歙県績溪	鎮海県小港鎮胡家墳	始祖胡子華由歙県遷入、以燒磚為業。	分支蟹蟻港	小港胡家墳胡氏。	180
22-2	胡氏	清康熙年間	鎮海県雁宕廟胡家	楓林郷			楓林胡氏	180
22-3	胡氏	清乾隆四十六年	近地莊下胡	鎮海県臨江郷渡駕橋			渡駕橋胡氏。	180
23	倪氏	清康熙年間	金塘郷	莊市鎮倪家村			莊市倪家村倪氏	186

24	孫氏	清康熙年間	餘姚鼎 双河孫 宗	貴驢鎮東孫西孫		分支有貴驢鎮 大市堰孫家。	貴驢東孫西孫孫 氏	183
25-1	唐氏	清初	販田 唐？	駱駝鎮洪家路			駱駝洪家路沿唐 氏	186
25-2	唐氏	清康熙年間	小港鎮	峙頭鄉寺灣			小港唐家	186
26-1	徐氏	清康熙年間	福建	峙頭鄉網畝八大坑？			羅畝八大坑徐氏	181
26-2	徐氏	清康熙年間	福建徐 平	楓林鄉徐夏家			楓林徐夏家徐氏	181
26-3	徐氏	清乾隆年間	小港鎮 徐家洋	駱駝鎮团橋三門頭			团橋三門頭徐氏	181
26-4	徐氏	清乾隆年間	小港鎮 徐家洋	駱駝鎮販頭			販頭徐氏	181
26-5	徐氏	清乾隆年間	小港鎮 徐家洋	駱駝鎮東錢			東錢徐氏	181
26-6	徐氏	清乾隆年間	小港鎮 徐家洋	長石鄉徐王			徐王徐氏	181
26-7	徐氏	清道光年間	定海	臨江鄉漕塘			臨江漕塘徐家	181
26-8	徐氏	清初	餘姚陸 埠楊徐	貴驢鎮徐家堰頭		分支有臨江鄉 河灣徐家。	貴驢徐家堰頭徐 氏	181
27	翁氏	清康熙年間	寧波西 門外	三山鄉鳳山			三山鳳山翁氏	186
28-1	袁氏	清初	鄞縣城 西郊鄉	清初又有氏系遷白峰 鄉雁停灣。			鄞西袁氏宗。始祖 袁子誠知臨安府、 后隨從宋高宗到 明州、定居鄞城西 郊。	185
28-2	袁氏	清初	鄞縣城 西郊鄉	清初又有氏系遷郭巨 鎮大涂塘。			鄞西袁氏宗。始祖 袁子誠知臨安府、 后隨從宋高宗到 明州、定居鄞城西 郊。	185
28-3	袁氏	清乾隆年間	鄞縣城 西郊鄉	鄞西一支派遷郭巨鎮 大涂塘定居。	始祖袁子誠知臨安府、 后隨從宋高宗到明州、 定居鄞城西郊。		鄞西袁氏宗。	185
29	馬氏	新乾隆年間	餘姚馬 家路	俞范鎮后施			后施馬氏	186
30-1	高氏	清乾隆年間	河南	貴驢鎮里洞橋			貴驢里洞橋高氏	186
30-2	高氏	清乾隆年間	鄞西高 橋鎮	貴驢鎮西港頭			貴驢西港頭高氏	186
31	烏氏	清初	鄞縣北 郊鄉庄 賽堰	莊市鎮長河塘、分上 烏·下烏		后有支派遷于 (駱駝鎮)团橋 烏氏。	莊市長河塘烏氏	187
32-1	張氏	清初	鄞江橋	俞范鎮廟			俞范廟后張氏	180

清代寧波沿海部における開発と移住 本田治

32-2	張氏	明清	寧波西門外張埠張氏。	高塘鄉上張家埠、下張家埠	明清時代陸統遷鎮、定居成族。	后又派衍、山下張氏、魁斗橋張氏。		180
32-3	張氏	明清	寧波西門外張埠張氏。	塔峙鄉丁山下、和鶴壩	明清時代陸統遷鎮、定居成族。	后又派衍、山下張氏、魁斗橋張氏。		180
32-4	張氏	明清	寧波西門外張埠張氏。	霞浦鎮朱塘	明清時代陸統遷鎮、定居成族。	后又派衍、山下張氏、魁斗橋張氏。		180
32-5	張氏	明清	寧波西門外張埠張氏。	柴橋鎮樓下張	明清時代陸統遷鎮、定居成族。	后又派衍、山下張氏、魁斗橋張氏。		180
33-1	陳氏	明清	姜山鎮陳氏大本堂・德声堂・雨鈔堂。	源浦陳家弄・曲漚塘・李蝦橋・沙河頭・駱駝大東陳・荷花池頭、大小河角頭陳・团橋頭、河頭大小陳底堰・田舍陳・莊市東頭陳・中官路陳・灣塘三合前陳・石塘下・江南陳十四房・小港剡壩・大碇周隘陳・高塘沿海陳・半浦陳・郎隘嘉溪・塔峙楊壩・霞浦陳華鋪・関毛陳・紫石陳打鼓壩・上陽黃老壩・峙頭升螺	源多出姜山鎮陳氏大本堂・德声堂・雨鈔堂。明清兩代遷入、旺族后支派四衍。			180
33-2	陳氏	清道光年間	温州平陽縣	三山鄉上橫村			三山上橫陳氏	180
34-1	陸氏	清	寧波岐陽鄉湖西陸家	莊市鎮西陸			莊市西陸陸氏	183
34-2	陸氏	清初	鄞縣北郊鄉三官堂陸白王	貴驕鎮			貴驕前陸后陸	183
35	曹氏	清初	鄞縣莫枝鎮陶公山下	莊市鎮聯豐		分支有莊市鎮西陸后曹。	莊市聯豐曹氏	184
36	傅氏	清道光年間	鄞縣五鄉磧傅家	駱駝鎮湯家池			駱駝湯家池傅氏	184
37	馮氏	清乾隆年間	慈溪縣西門	莊市鎮漢塘			漢塘馮氏	186
38	屠氏	清初	寧波	大碇鎮芦山			大碇芦山屠氏	188
39	程氏	清初	安徽省	俞范鎮灣塘鄉			灣塘后程氏	187
40	葉氏	清乾隆年間	慈溪縣葉家	莊市鎮漢塘鄉		分支有臨江鄉迎師橋。	莊市漢塘葉氏	183
41-1	董氏	清康熙年間	奉化董家畝	貴驕鎮董家畝			貴驕董家畝董氏	185

41-2	董氏	清	寧波西門外板橋頭	莊市鎮老鷹灣			莊市老鷹灣董氏	185
42	童氏	清乾隆初	鄞縣莫枝鎮樟橋童姚馬涇童家	駱駝鎮蔡家橋廟			駱駝蔡家橋廟童氏	186
43	葛氏	清道光年間	樟橋葛家	莊市鎮沈葛劉屠			莊市沈葛劉屠葛氏	187
44	蔣氏	清初	奉化	臨江鄉			臨江老屋蔣氏	185
45	趙氏	清初	山東省鄆城県	大磧鎮河北			大磧河北趙氏	183
46	潘氏	清初	江西省潘莊	漣浦鎮覺渡			覺渡潘氏	185
47	黃氏	清順治年間	四川	楓林鄉大石門			楓林大石門前黃・后黃氏	187
48	鮑氏	清乾隆年間	姜山鄉鮑家	楓林鄉鮑家洋			楓林鮑家洋鮑氏	188
49	嚴氏	清康熙年間	慈谿縣三北鎮徐家壘	漣浦鎮余嚴			漣浦余嚴嚴氏	184
50-1	戴氏	清初	奉化縣蕭王廟戴氏	霞浦鎮廟		分支有漣浦鎮橋里戴、田央戴、浦路戴、后戴。	霞浦廟戴氏	184
50-2	戴氏	清乾隆年間	奉化縣	郭巨鎮			郭巨戴氏	184
50-3	戴氏	清初	鄞縣天童鄉	霞浦鎮			霞浦戴氏	184
51-1	顏氏	清乾隆年間	本縣汶溪鄉顏氏	貴驛鎮甸張			貴驛甸張顏氏	187
51-2	顏氏	清乾隆	山東	俞范鎮			俞范顏氏	187
52-1	龔氏	清末	餘姚北	俞范鎮灣塘鄉海甸			灣塘海甸龔氏	186
52-2	龔氏	清末	餘姚北	江南鄉下泥場			江南下泥場龔氏	186

